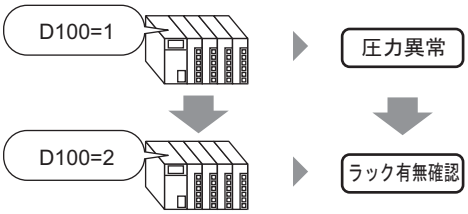
17 文字列・テキストの表示と切り替え

この章では、GP-Pro EX の「文字列・テキストの表示と切り替え」についての基本的な説明と、設定変更のための基本操作について説明します。
まず「17.1 設定メニュー」（17-2 ページ）をお読みいただき、目的に合った説明ページへ読み進んでください。

17.1 **設定メニュー**.....17-2
17.2 **メッセージ（文字列）を切り替えて表示したい**.....17-4
17.3 **テキストを切り替えて表示したい**.....17-8
17.4 **ほかの言語に切り替えたい（マルチランゲージ）**.....17-15
17.5 **ほかの言語のテキストに切り替えたい（マルチランゲージ）**.....17-24
17.6 **登録した文字列テーブルを別ファイルで管理したい / ほかのプロジェクトでも利用したい**17-31
17.7 **データ転送をせずに文字列テーブルを変更したい**.....17-37
17.8 **複数の** GP **画面上で回覧メッセージを表示したい**.....17-42
17.9 **設定ガイド**.....17-45
17.10 **制限事項**.....17-88

17.1 設定メニュー

メッセージ（文字列）を切り替えて表示したい



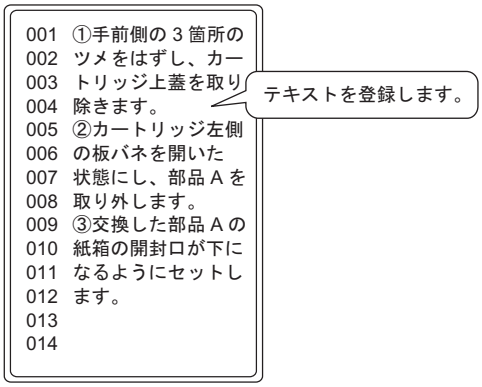
PLC へ入力する数字によって
文字列が切り替わります

☞ 設定手順（17-5 ページ）
☞ 詳細（17-4 ページ）

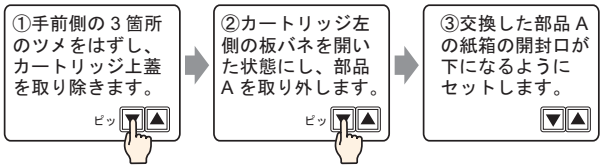
テキストを切り替えて表示したい

登録したテキストを何回かに分けて表示します。

テキスト登録画面

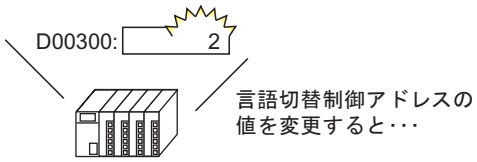


画面上スクロールしてテキストを表示します。



☞ 設定手順（17-9 ページ）
☞ 詳細（17-8 ページ）

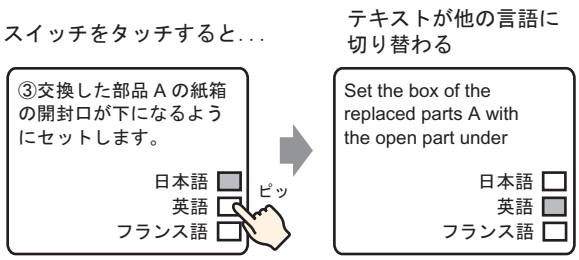
ほかの言語に切り替えたい（マルチランゲージ）



スイッチの銘板や文字列の言語が切り替わる

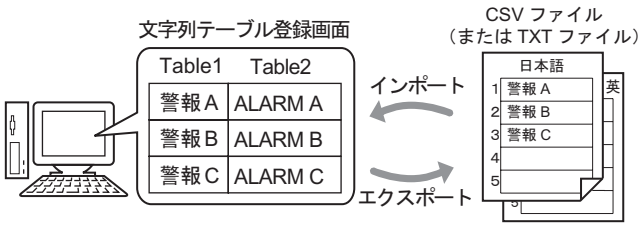
☞ 設定手順（17-16 ページ）
☞ 詳細（17-15 ページ）

ほかの言語のテキストに切り替えたい（マルチランゲージ）



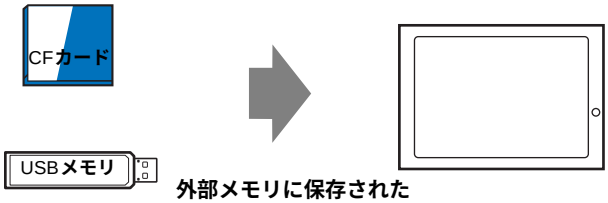
☞ 設定手順（17-25 ページ）
☞ 詳細（17-24 ページ）

登録した文字列テーブルを別ファイルで管理したい/ほかのプロジェクトでも利用したい



☞ 設定手順（17-32 ページ）
☞ 詳細（17-31 ページ）

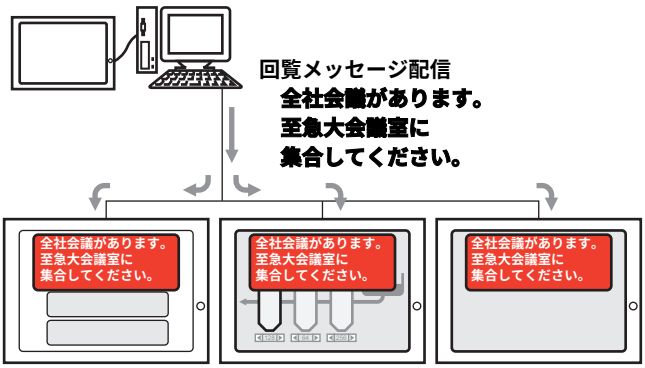
データ転送をせずに文字列テーブルを変更したい



外部メモリに保存された
文字列テーブルデータを
読み込む

☞ 設定手順（17-38 ページ）
☞ 詳細（17-37 ページ）

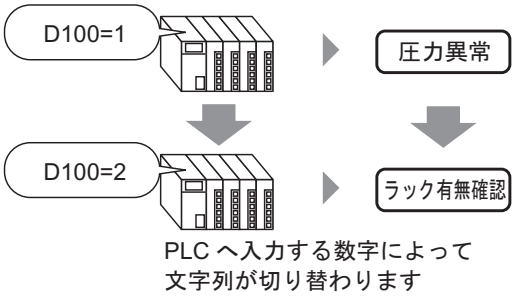
複数のGP画面上で回覧メッセージを表示したい



☞ 設定手順（17-43 ページ）
☞ 詳細（17-42 ページ）

17.2 メッセージ（文字列）を切り替えて表示したい

17.2.1 詳細



ビットアドレスの ON/OFF、またはワードアドレスの値の変化（0 ～ 15）に応じて、あらかじめ用意したメッセージを切り替えて表示することができます。

17.2.2 設定手順

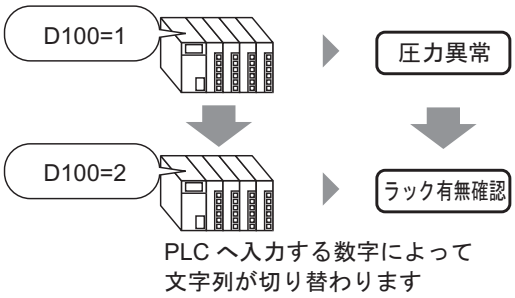
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「17.9.1 **メッセージ表示器の設定ガイド ■ 直接入力**」（17-46 **ページ**）

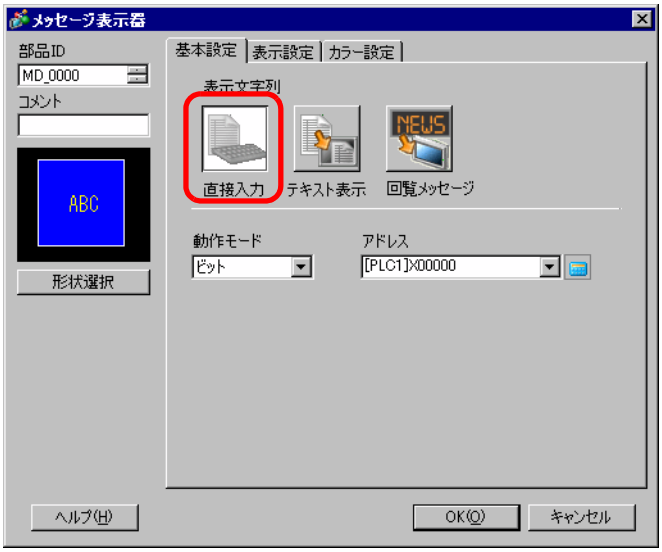
- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「8.6.1 **部品の編集手順**」（8-42 **ページ**）



1 [部品 (P)] メニューの [メッセージ表示器 (M)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

2 配置したメッセージ表示器をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



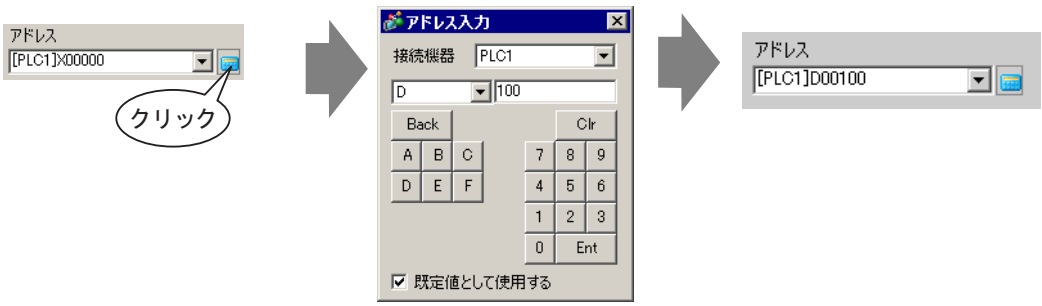
3 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

4 [動作モード] でメッセージの切り替え方法を選択します。（例：ワード）

5 [アドレス] に、メッセージを表示するトリガとなるアドレス（D100）を設定します。

アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「D」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。



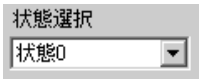
6 [表示設定] タブを開き、[文字タイプ] で [直接文字列] を選択します。

7 [メッセージ数] で表示するメッセージの数を選択します。（例：4）

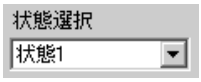
8 メッセージのフォントタイプやサイズ、表示言語を指定します。

9 [整列] で表示する文字列の位置を選択します。（例：中央揃え）

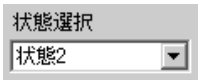
10 それぞれの状態に対するメッセージを登録していきます。
[状態選択] で [状態 0] を選択し、[メッセージ登録] で「未定義」を消去します。
（空白にすると、[アドレス] に 0 が格納された場合は何も表示しません。）

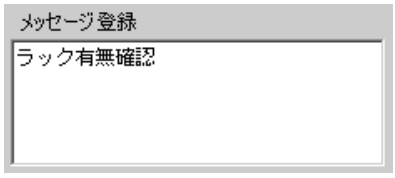


11 [状態選択] で [状態 1] を選択し、[メッセージ登録] で「圧力異常」と入力します。
（[アドレス] に 1 が格納された場合、「圧力異常」を表示します。）



12 [状態選択] で [状態 2] を選択し、[メッセージ登録] で「ラック有無確認」と入力します。
（[アドレス] に 2 が格納された場合、「ラック有無確認」を表示します。）





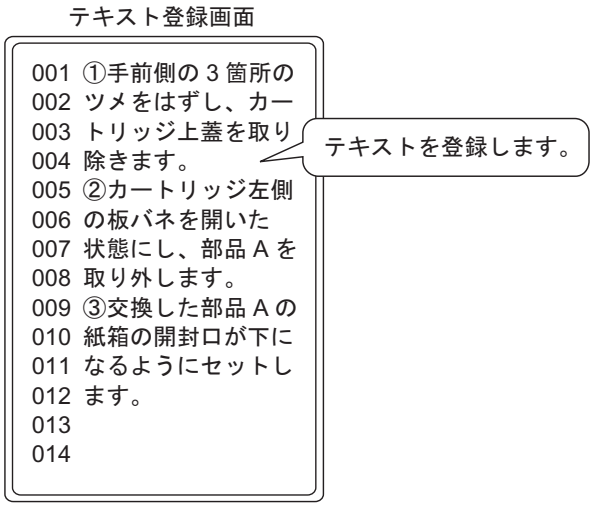
13 必要に応じて [カラー設定] タブでそれぞれの状態に応じた文字カラーやプレートカラーを設定し、[OK] をクリックします。

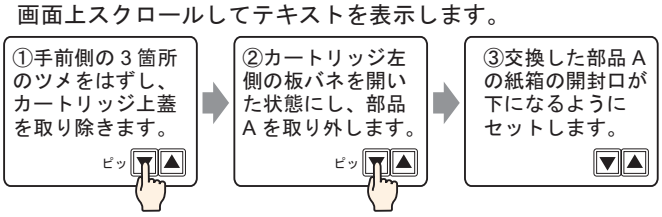
MEMO

- メッセージを登録していない状態を指定した場合、メッセージ表示器には何も表示されません。例えば、メッセージ数が「16」で、実際にメッセージを登録しているのが状態 0 ～ 3 までの場合、状態 4 ～ 15 を指定すると、文字表示部品の枠しか表示されません。
- 登録するメッセージは、1 行あたり半角 100 文字以内で入力してください。入力文字数がこの範囲を超えていた場合、あふれた部分は表示されません。

17.3 テキストを切り替えて表示したい

17.3.1 詳細





登録したテキスト（文章）を画面上に表示します。

1 画面では表示できないテキストは、何行かごとにスクロールして表示することができます。

17.3.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

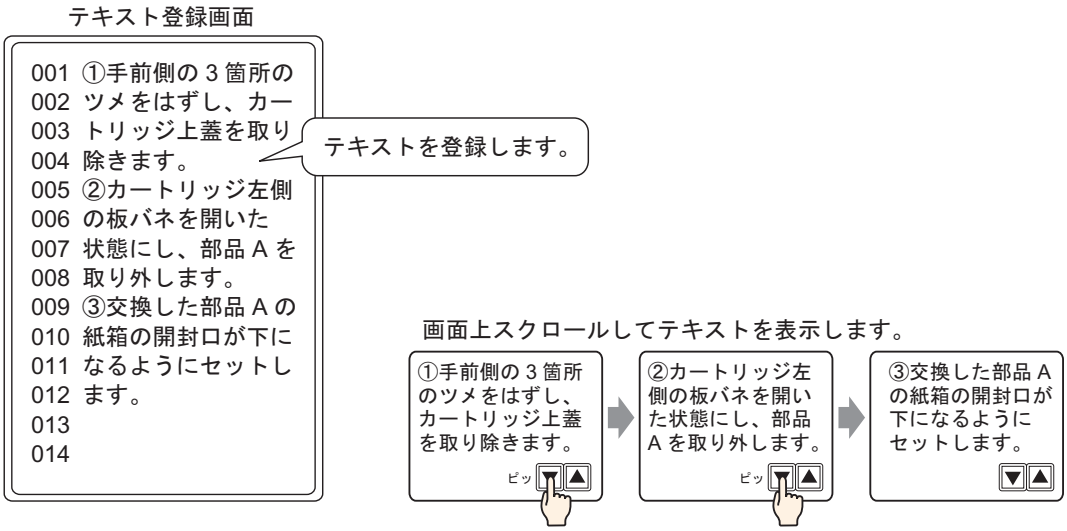
☞「17.9.1 **メッセージ表示器の設定ガイド ■ テキスト表示**」(17-50 **ページ**)

☞「17.9.2 **共通設定（テキスト登録）の設定ガイド**」(17-58 **ページ**)

- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

☞「8.6.1 **部品の編集手順**」(8-42 **ページ**)

登録したテキストを 1 画面上に表示します。



1 [共通設定 (R)] メニューから [テキスト登録 (T)] を選択するか、 をクリックすると [テキストの新規作成 / 開く] ダイアログボックスが表示されます。

2 テキストの番号、コメントを設定し、[新規作成] をクリックします。
（例：テキスト番号「1」、コメント「メンテナンス」）

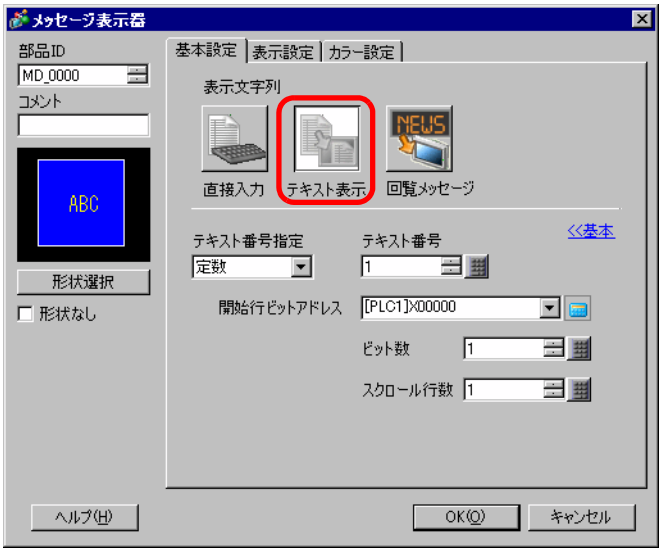
3 テキスト入力画面が表示されますので、テキストを入力します。

入力が終わったら、画面右端の をクリックしてテキストを閉じます。

4 続いてメッセージ表示器の設定を行います。テキストを表示させる画面を開き、[部品 (P)] メニューから [メッセージ表示器 (M)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

5 配置したメッセージ表示器をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。

6 [テキスト表示] を選択し、[詳細] をクリックします。

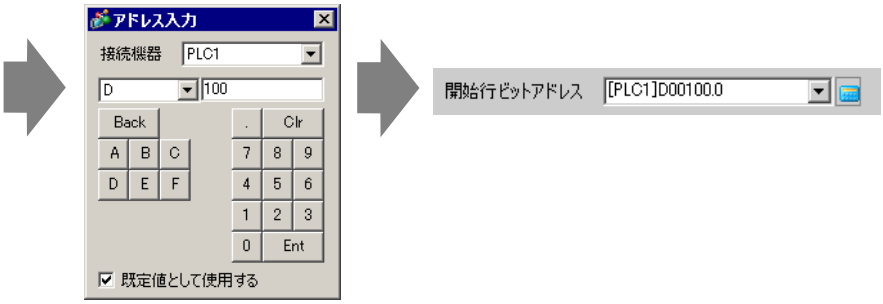


7 [テキスト番号指定] で表示するテキストの指定方法を選択し、テキスト番号を設定します。

8 [開始行ビットアドレス] に、メッセージを表示するトリガとなる先頭アドレス（D100 の 00 ビット）を設定します。

をクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「D」を選択し、アドレスに「100.0」を入力して「Ent」キーを押します。



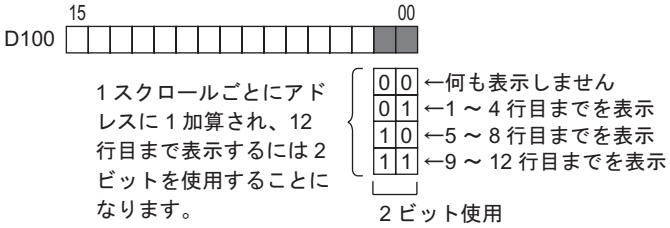
MEMO

- ビットアドレスまたはビット指定できるワードアドレスを指定します。ビットアドレスを設定した場合、[ビット数] 分の連続アドレスが表示開始行を設定するために割り当てられます。ワードアドレスを設定した場合は、その 1 ワード (16 ビット) 内にある [ビット数] 分の連続ビットが使用されます。

9 [ビット数] で表示開始行指定のために何ビット使用するかを設定します。（例：2）

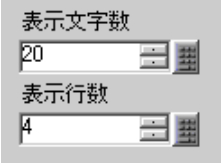
MEMO

- 使用ビット数は [スクロール行数] により異なります。4 行ずつスクロールする場合、全 12 行を表示するには最大 3 回スクロールする必要があります。「3」を格納するには 2 ビット分必要となります。



10 [スクロール行数] でテキストを何行ずつスクロールするかを設定します。（例：４）

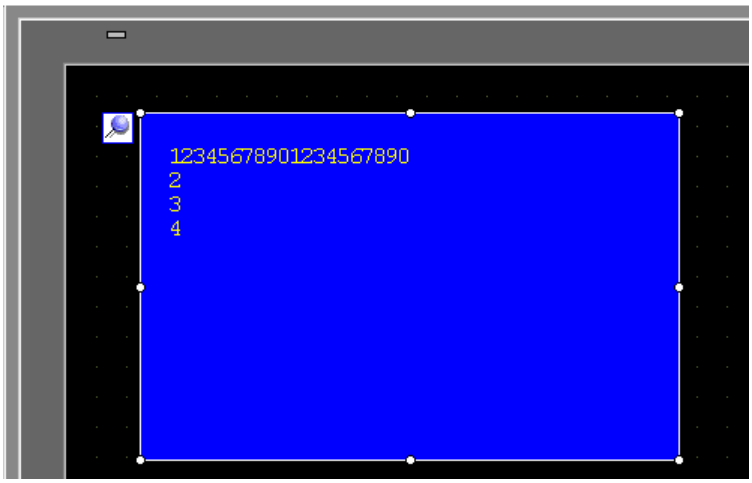
11 [表示設定] タブを開き、表示文字数と行数を設定します。



MEMO

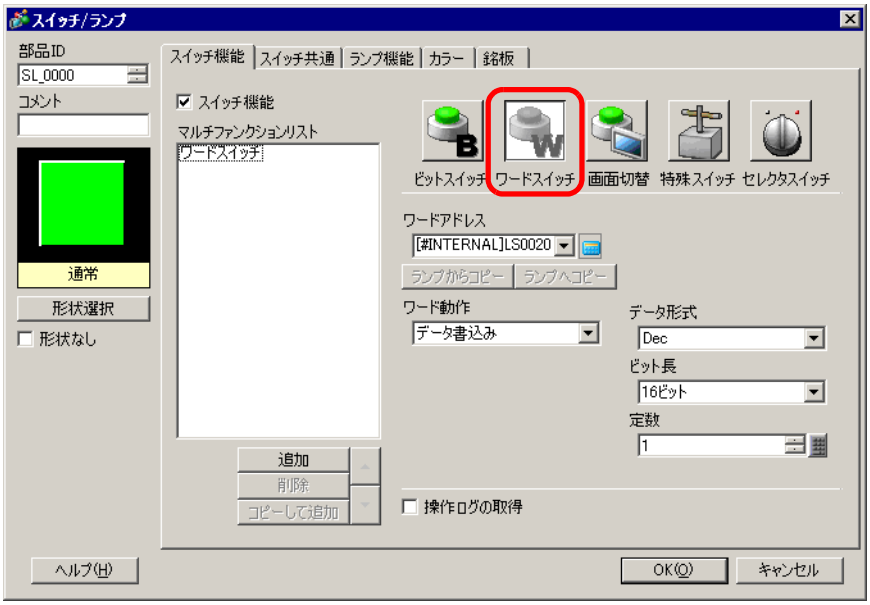
- 半角 1 文字を表示する場合は表示文字数「1」、全角 1 文字の場合は表示文字数「2」となります。

12 必要に応じて [カラー設定] タブで、メッセージ表示器の色や文字色を設定し、[OK] をクリックします。メッセージ表示器の設定が完了しました。



13 テキストをスクロールするためのスイッチを設定します。[部品 (P)] メニューの [スイッチランプ (C)] から [ワードスイッチ (W)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

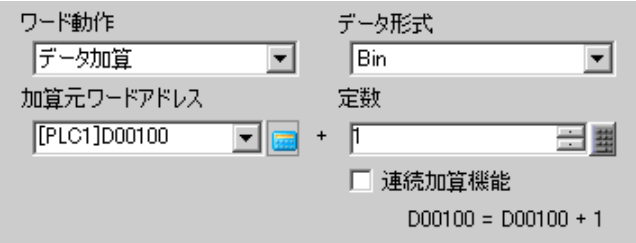
14 配置したスイッチをダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



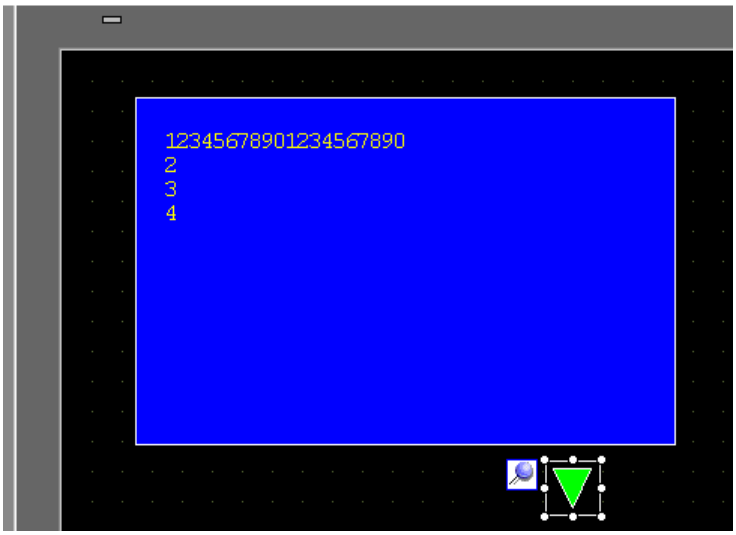
15 [形状選択] でスイッチの形状を選択します。

16 [ワードアドレス] にタッチでデータを書き込みたいアドレス (D100) を設定します。

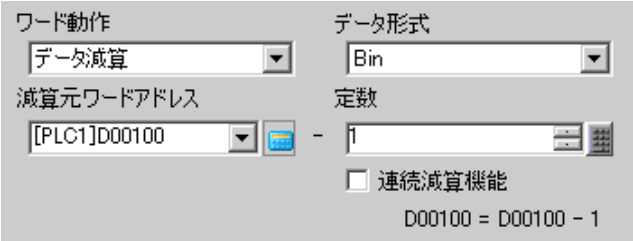
17 [ワード動作] で [データ加算] を選択し、[加算元ワードアドレス] にどのアドレス値を加算するかを指定します。



18 [カラー] タブ、[銘板] タブで必要に応じてスイッチの色や銘板を設定し、[OK] をクリックします。
テキストを次の文章にスクロールさせるスイッチが作成できました。



19 同様にしてテキストを前の文章にスクロールさせるスイッチを作成します。ワードスイッチを配置し、[ワード動作] で [データ減算] を指定します。



2 個のスクロールスイッチが配置できました。

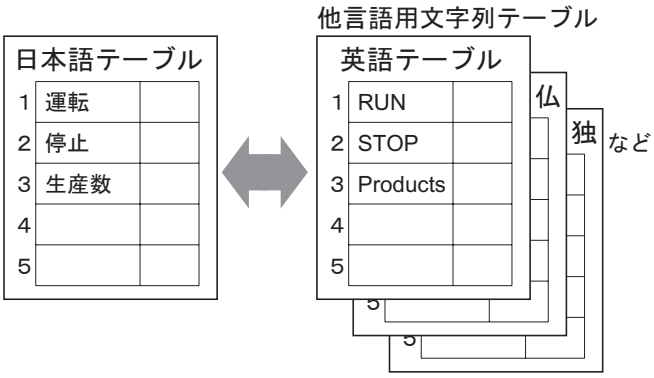
MEMO

- テキストは 1 行あたり半角 100 文字までで最大 512 行まで設定できます。
- 表示開始行として設定されたデータに該当するテキストの行がない場合は、何も動作を行いません。すでに表示されている行はそのままです。
- 設定された表示エリアに収まりきらない長さのテキストデータがあった場合、あふれた部分は表示されません。

17.4 ほかの言語に切り替えたい（マルチランゲージ）

17.4.1 詳細

変更したい文字列に相当する他言語の文字列をあらかじめ文字列テーブルに登録しておくと、システムの運転中でも文字列の言語を変更できます。（翻訳機能はありません）



17.4.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「17.9.3 **文字列テーブル設定の設定ガイド**」（17-59 **ページ**）

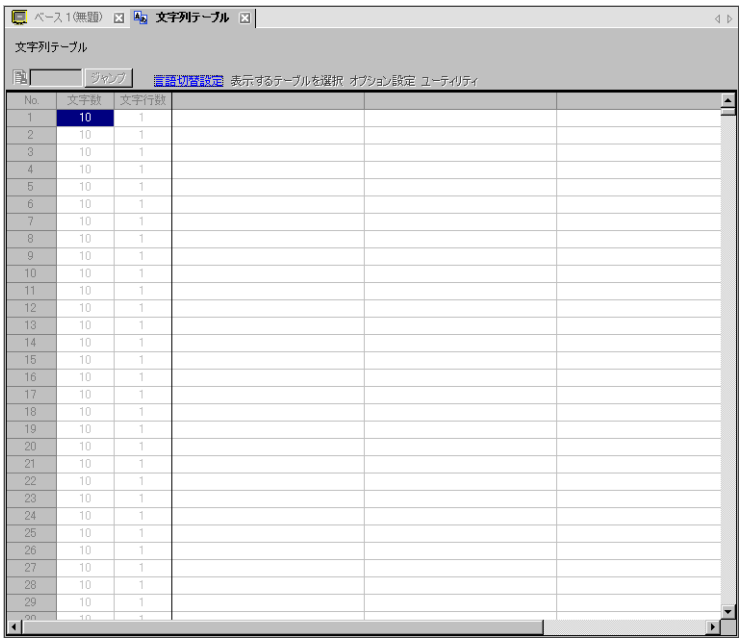
  ☞「17.9.4 **スイッチランプ部品 － 銘板（文字列テーブルを使用する場合）の設定ガイド**」（17-65 **ページ**）

- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

  ☞「8.6.1 **部品の編集手順**」（8-42 **ページ**）

運転中にスイッチの銘板をほかの言語に切り替えられるよう設定します。

1 まず画面上で使用する単語や文章を文字列テーブルに登録します。
[共通設定 (R)] メニューから [文字列テーブル設定 (S)] を選択するか、 をクリックすると次の画面が表示されます。



2 [言語切替設定] をクリックすると次のダイアログボックスが表示されます。[言語切替機能を使用する] にチェックを入れます。

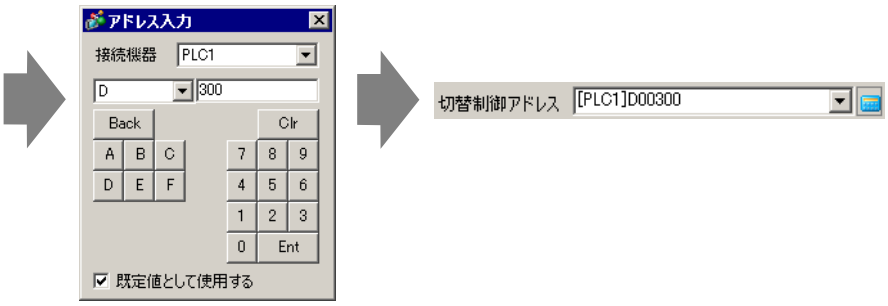
MEMO

- [言語切り替え機能を使用する] のチェックを外すと、すでに設定されていた文字列テーブルの内容がすべて削除されます。

3 [切替制御アドレス] に表示するテーブル番号を格納するアドレス（例：D300）を設定します。

をクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「D」を選択し、アドレスに「300」を入力して「Ent」キーを押します。



4 [初期テーブル] には、指定した [切替制御ワードアドレス] に「0」が入っているときに表示するテーブルを設定します。

5 各テーブルで使用する言語を選択し、[OK] をクリックします。
（例：テーブル 1　日本語、テーブル 2　欧米）

6 [文字数]、[文字行数] を設定し、単語や簡単なメッセージをテーブルごとに入力します。
（例：文字数 10、文字行数 1）

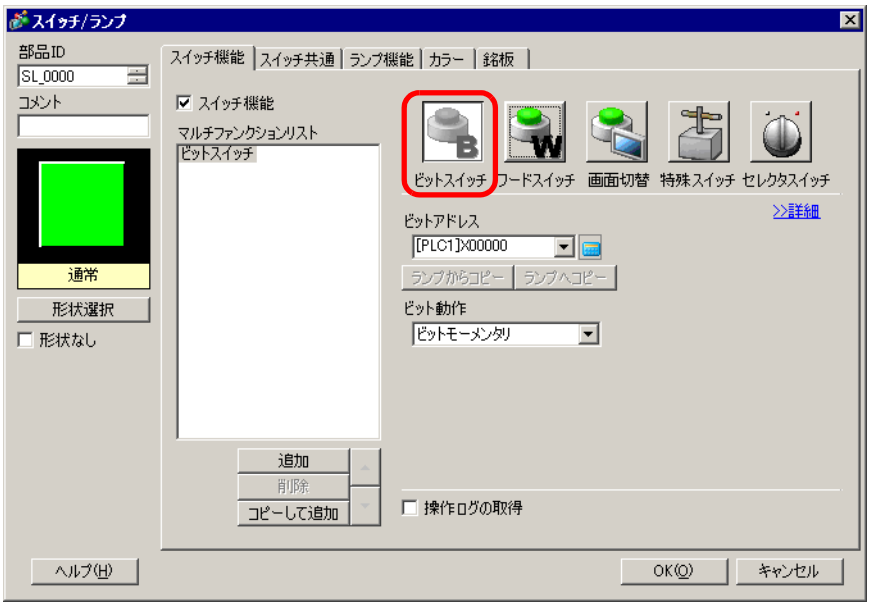
入力が終わったら [文字列テーブル] タブの ☒ をクリックして [文字列テーブル] を閉じます。
文字列テーブルの登録が完了しました。

MEMO

- [オプション設定] － [文字列テーブル] － [文字数、文字行数の設定] で [入力文字優先] を設定しておくと、入力文字が [文字数]、[文字行数] の設定値を超えても登録できます。また、「Alt」＋「Enter」キーでの改行が有効になります。

7 画面で使用するスイッチの銘板として、文字列テーブルを使用します。
作画画面を開き、[部品 (P)] メニューの [スイッチランプ (C)] － [ビットスイッチ (B)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

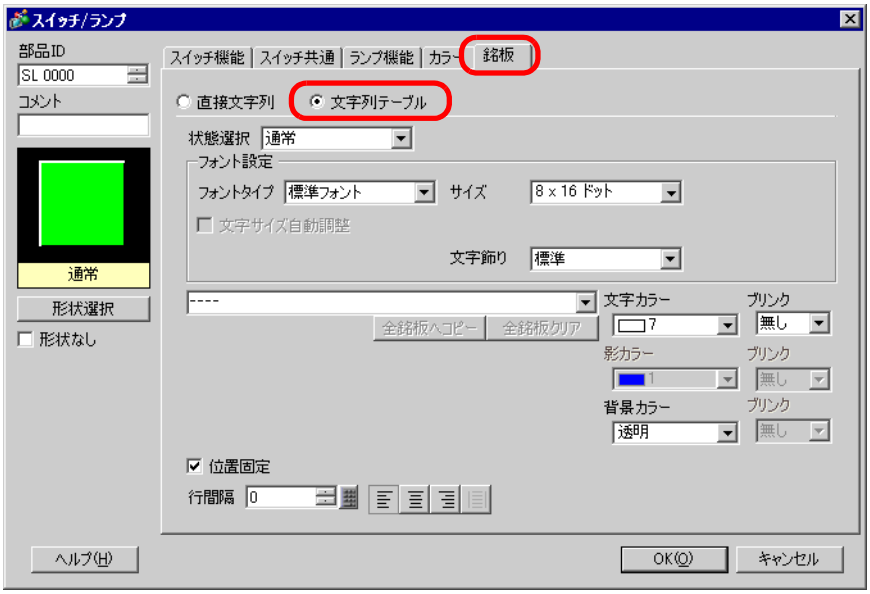
8 配置したスイッチをダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。



9 [形状選択] でスイッチの形状を選択します。

10 ビットアドレス (例：M100) を指定し、[ビット動作] で [ビットセット] を指定します。

11 [銘板] タブを開き、[文字列テーブル] を選択します。



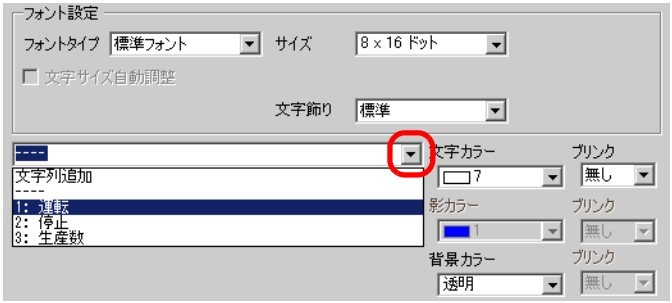
12 銘板のフォントタイプやサイズ、文字カラーなどを設定します。

MEMO

- フォントタイプに [ストロークフォント] を選択すると、文字列テーブルの文字が部品内に収まるように自動調整する [文字サイズ自動調整] が設定できます。

☞「17.9.1 **メッセージ表示器の設定ガイド ■ 直接入力 ◆ 表示設定（文字列テーブル）**」（17-48 **ページ**）

13 プルダウンメニューに先ほど登録した文字列がリスト表示されるので、銘板に使用する文字列を選択します。（例：運転）



MEMO

- まだ文字列テーブルに登録されていない単語を新たに追加したい場合は [文字列追加] を選択すると登録できます。

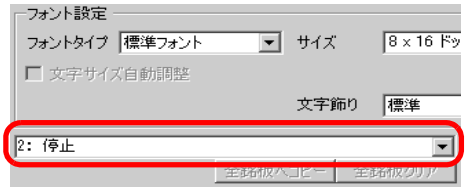
14 銘板文字列の表示位置を設定し、[OK] をクリックします。

「運転」スイッチが作成できました。

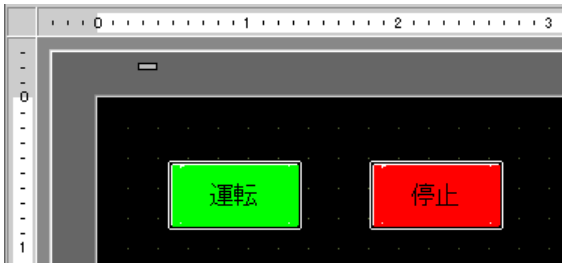
15 同様にして「停止」スイッチを作成します。

[スイッチ機能]タブ

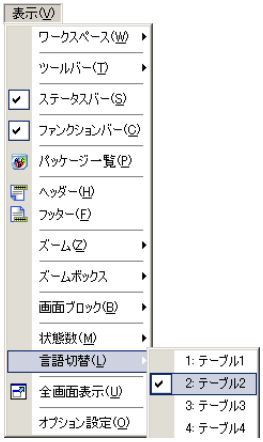
[銘板]タブ



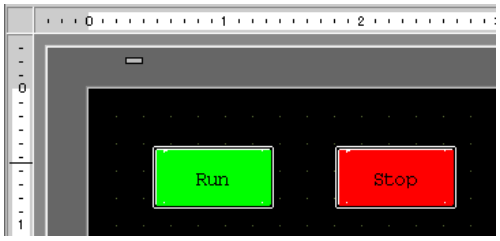
2 個のスイッチが作成できました。



文字列テーブルを切り替えた場合の表示状態を確認するには、[表示 (V)] メニューの [言語切替 (L)] で、[テーブル 2] を選択します。



テーブル2のときの表示状態



MEMO

- スイッチの銘板のほか、メッセージ表示器、描画の文字列、アラーム部品の項目名、アラームメッセージなどでも、文字列テーブルに登録した文字列を使用できます。

  ☞「17.9.1 **メッセージ表示器の設定ガイド ■ 直接入力 ◆ 表示設定（文字列テーブル）**」（17-48 **ページ**）

  ☞「17.9.5 **描画の文字列（文字列テーブルを使用する場合）の設定ガイド**」（17-67 **ページ**）

  ☞「17.9.6 **アラーム部品 － 項目設定 / 詳細（文字列テーブル）の設定ガイド**」（17-69 **ページ**）

  ☞「17.9.7 **アラーム設定（文字列テーブルを使用する）の設定ガイド**」（17-70 **ページ**）

- 言語を切り替えると、文字列テーブルを使用したすべての文字列が切り替わります。複数言語のテキストを登録している場合、表示中のテキストの言語も切り替わります。
- 各画面でメッセージ表示器やスイッチ / ランプ部品、アラームなどに設定した文字列を文字列テーブルに自動で登録することができます。

◆文字列テーブルのコンバート

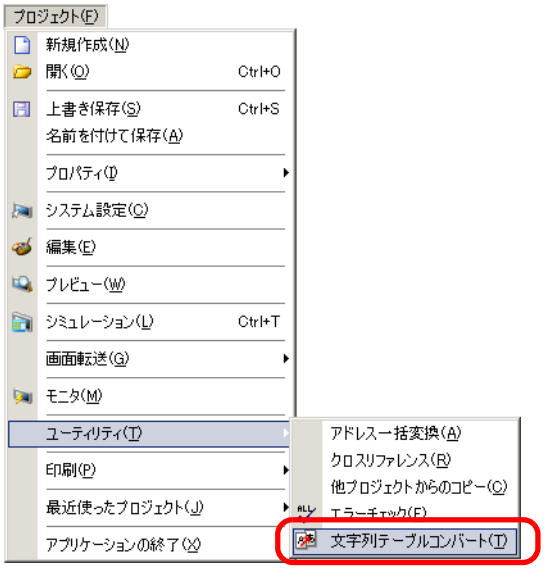
MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

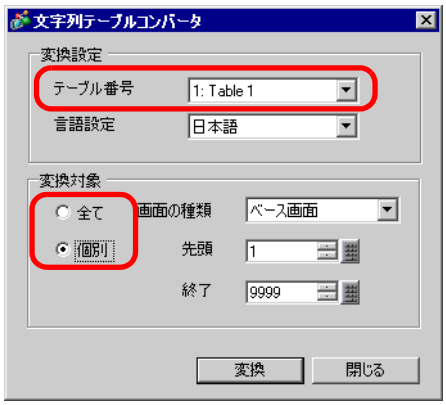
☞「5.17.4 [**ユーティリティ**] **の設定ガイド ■ 文字列テーブルコンバート**」（5-122 **ページ**）

各画面で設定している文字列を文字列テーブルに登録します。

1 [プロジェクト (F)] メニューから [ユーティリティ (T)] ― [文字列テーブルコンバート (T)] を選択します。

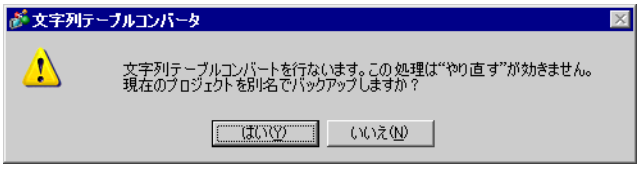


2 [文字列テーブルコンバータ] ダイアログボックスが表示されるので、変換先のテーブル番号と変換対象を選択します。(例：[変換テーブル番号]1: Table 1、[変換対象] 個別)

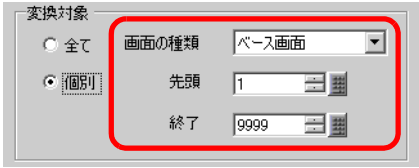


MEMO

- 編集中のプロジェクトファイルが保存されていない場合は、ダイアログボックスが表示される前に次のメッセージが表示されます。



3 変換する画面の種類と画面番号を選択します。(例：[画面の種類] ベース画面、[先頭][終了]1)



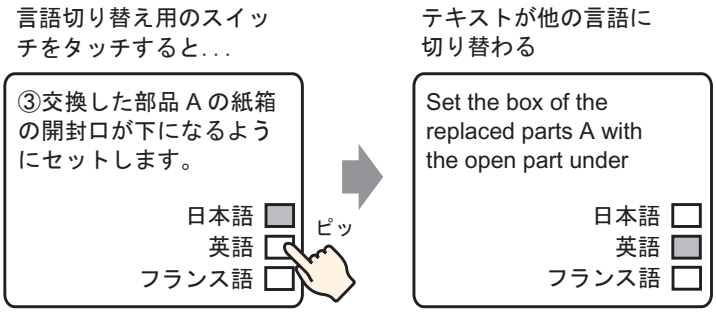
MEMO
- [変換対象] を [個別] に設定すると、変換する画面の種類が選択できます。

4 [変換] をクリックすると、指定したテーブル番号へ文字列テーブルがまとめられます。
変換終了後、[閉じる] をクリックして編集画面に戻ります。

MEMO
- すでに同じ文字列が文字列テーブルに存在する場合は登録されません。

17.5 ほかの言語のテキストに切り替えたい（マルチランゲージ）

17.5.1 詳細



変更したいテキスト（文章など）に相当する他言語のテキストをあらかじめ用意しておくと、システムの運転中でもテキストの言語を変更できます。（翻訳機能はありません。）
言語を切り替えると、テキストのほか文字列テーブルを設定したすべての文字列が切り替わります。

17.5.2 設定手順

MEMO

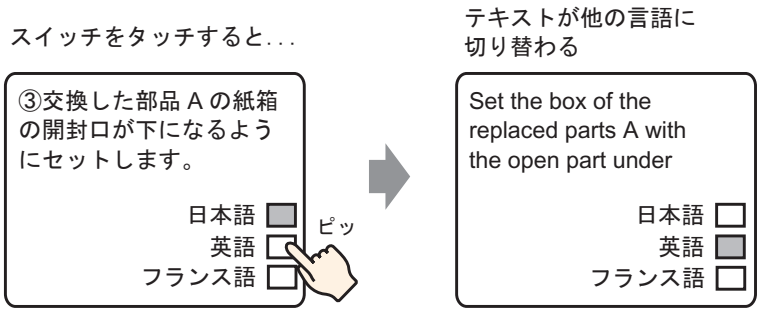
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

  ☞「17.9.2 共通設定（テキスト登録）の設定ガイド」（17-58 ページ）

  ☞「17.9.1 メッセージ表示器の設定ガイド ■ テキスト表示」（17-50 ページ）

- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

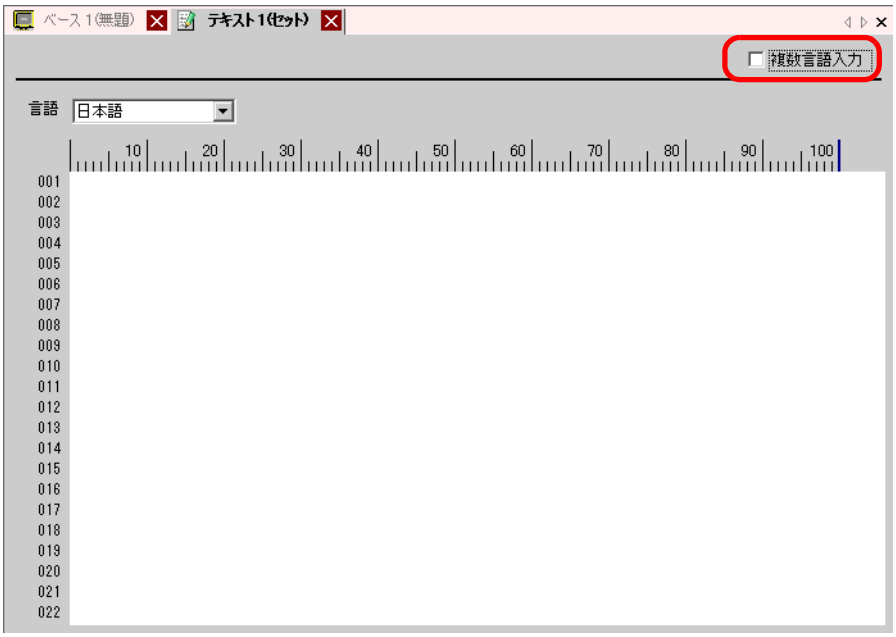
  ☞「8.6.1 部品の編集手順」（8-42 ページ）



1 使用する複数言語のテキストを登録します。[共通設定 (R)] メニューから [テキスト登録 (T)] を選択するか、をクリックすると [テキストの新規作成 / 開く] ダイアログボックスが表示されます。

2 テキストの番号、コメントを設定し、[新規作成] をクリックします。
（例：テキスト番号「1」、コメント「セット」）

3 [複数言語入力] にチェックを入れると、次のような確認メッセージが表示されるので [はい] をクリックします。



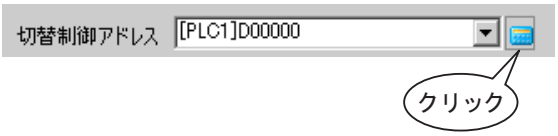
4 [言語切替設定] ダイアログボックスが表示されます。[言語切替機能を使用する] にチェックを入れます。

MEMO

- [言語切り替え機能を使用する] のチェックを外すと設定されていた文字列テーブルの内容がすべて削除されます。

5 [切替制御アドレス] に表示するテーブル番号を格納するアドレス（D300）を設定します。

アイコンをクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

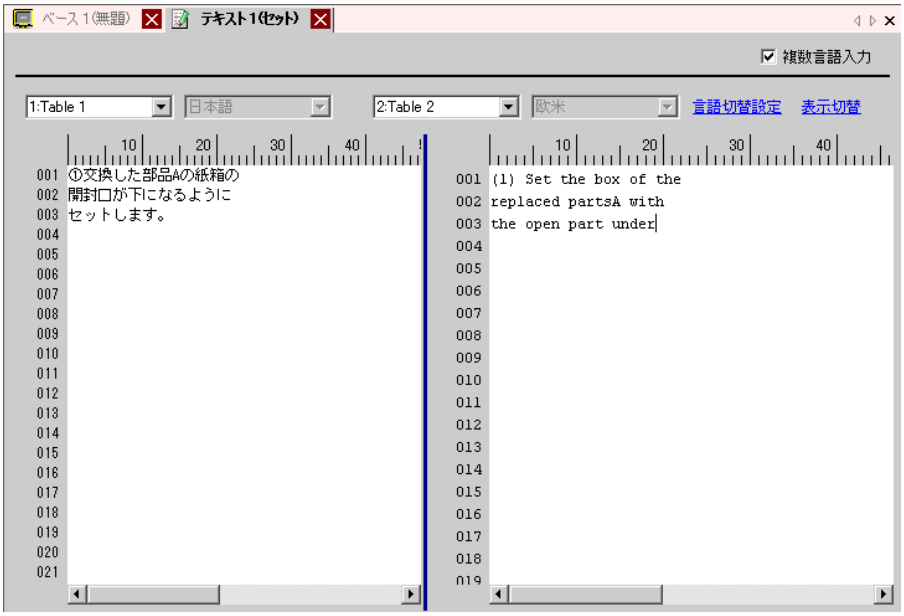


デバイス「D」を選択し、アドレスに「300」を入力して「Ent」キーを押します。

6 [初期テーブル] には、[切替制御ワードアドレス] に「0」が入っているときに表示するテーブルを設定します。

7 各テーブルで表示する言語を選択し、[OK] をクリックします。
（例：テーブル 1　日本語、テーブル 2　欧米）

8 テーブルごとに、表示させる文章 (テキスト) を入力します。



入力が終わったら、[文字列テーブル] タブの をクリックしてテキストを閉じます。
テキストの登録が完了しました。

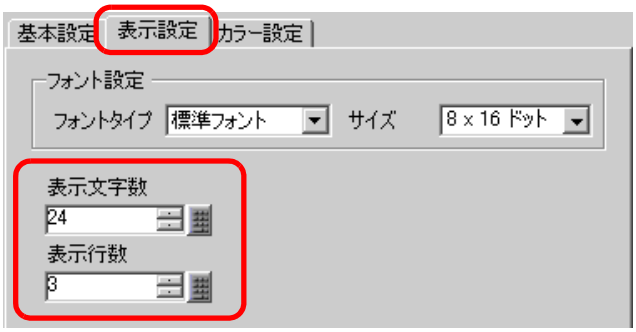
9 続いてメッセージ表示器の設定を行います。作画画面を開き、[部品 (P)] メニューの [メッセージ表示器 (M)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

10 配置したメッセージ表示器をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。[テキスト表示] アイコンをクリックします。

11 [テキスト番号指定] でテキスト番号の指定方法を選択し、表示するテキスト番号を設定します。

12 [起動ビットアドレス] に、テキストを表示するトリガとなるアドレス（M100）を設定します。

13 [表示設定] タブを開き、[表示文字数] と [表示行数] を設定します。

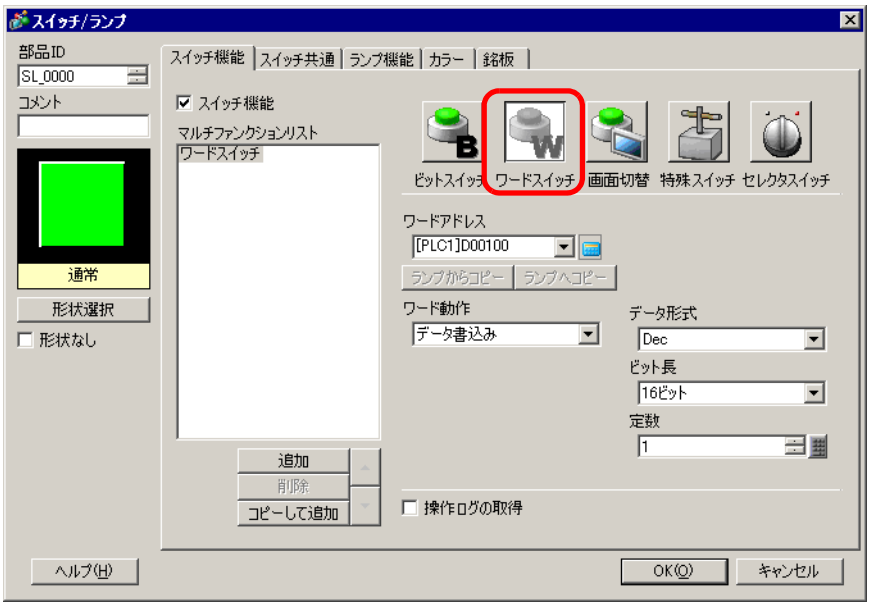


MEMO
- 半角 1 文字の場合は表示文字数「1」、全角 1 文字の場合は表示文字数「2」となります。

14 必要に応じて、[カラー設定] タブでメッセージ表示器の色や文字色を設定し、[OK] をクリックします。メッセージ表示器が設定できました。

15 言語を切り替えるためのスイッチを作成します。[部品 (P)] メニューの [スイッチランプ (C)] から [ワードスイッチ (W)] を選択するか、 をクリックし、画面に配置します。

16 配置したスイッチをダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが開きます。

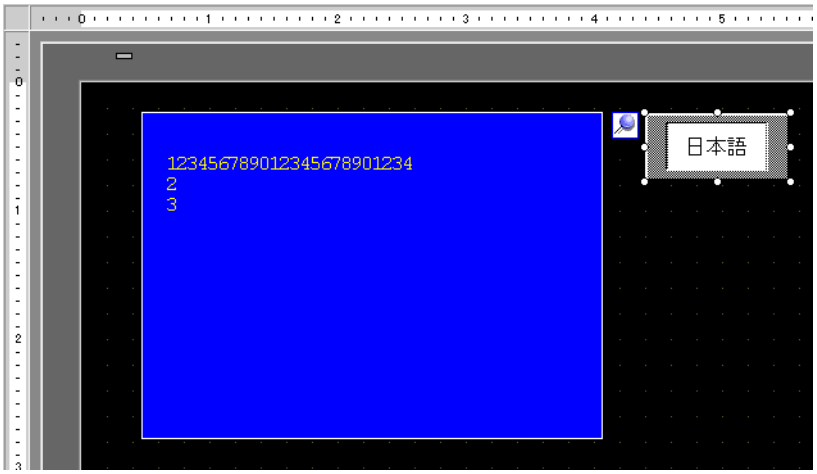


17 [形状選択] でスイッチの形状を選択します。

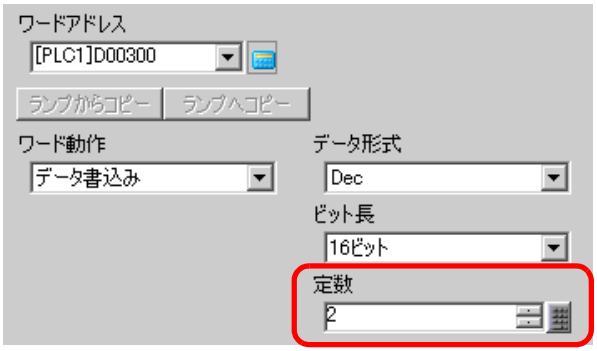
18 [ワードアドレス] に、設定した [切替制御ワードアドレス] と同じアドレス（D300）を設定します。

19 [ワード動作] で [データ書込み] を選択し、[定数] に「1」を設定します。

20 必要に応じて [カラー] タブ、[銘板] タブでスイッチの色や銘板を設定し、[OK] をクリックします。日本語のテキスト (Table 1) に切り替えるスイッチが設定できました。



21 同様にして、英語のテキスト (Table2) に切り替えるスイッチを作成します。スイッチの設定は以下のとおりです。



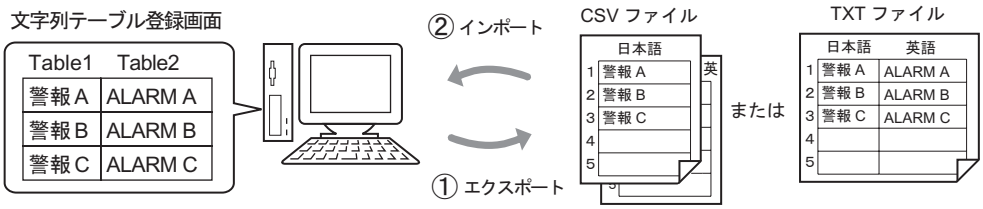
MEMO

- テーブル（言語）を切り替えると、テキストのほか文字列テーブルを設定したすべての文字列も切り替わります。

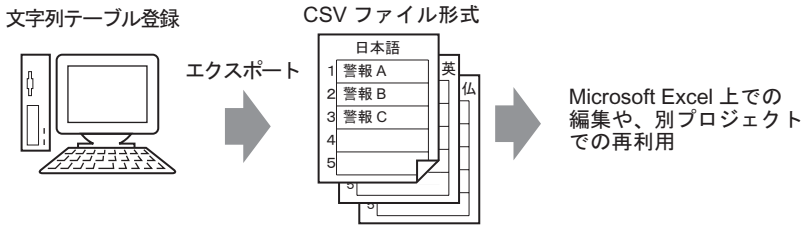
17.6 登録した文字列テーブルを別ファイルで管理したい / ほかのプロジェクトでも利用したい

17.6.1 詳細

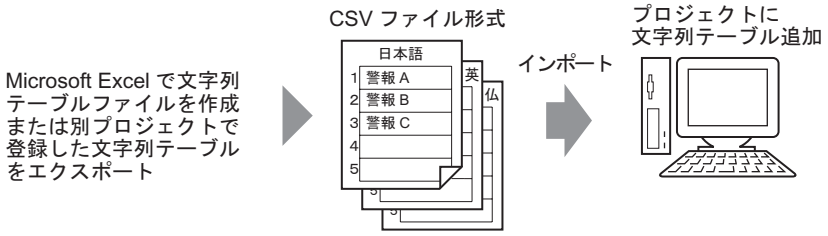
■ 登録した文字列テーブルを CSV または TXT ファイル形式で保存・再利用する



① プロジェクト上で登録した文字列テーブルを、CSV 形式または TXT 形式のファイルにして保存（エクスポート）できます。
保存した文字列テーブルファイル（*.csv または *.txt）は、Microsoft Excel などの表計算ソフトで登録内容を編集できます。
☞「17.6.2 設定手順 ■ エクスポート」（17-32 ページ）



② CSV 形式または TXT 形式で保存された文字列テーブルファイル（①を参照）を、別プロジェクトにインポートして利用できます。
またあらかじめ Microsoft Excel などの表計算ソフトを使用して文字列テーブルファイル（*.csv または *.txt）を作っておき、そのファイルをプロジェクトにインポートして利用できます。
本ソフトをお持ちでない方に文字列データの他言語翻訳を依頼する場合などに適しています。
☞「17.6.2 設定手順 ■ インポート」（17-34 ページ）



MEMO
- 複数の異なる言語を同時にエクスポート / インポートするには、TXT 形式のファイルで保存してください。

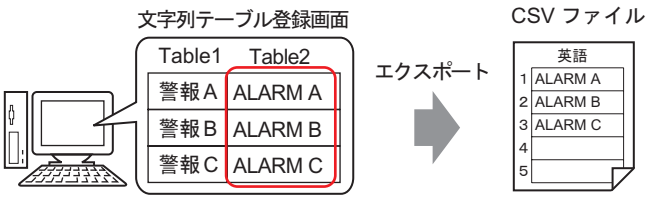
17.6.2 設定手順

MEMO
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

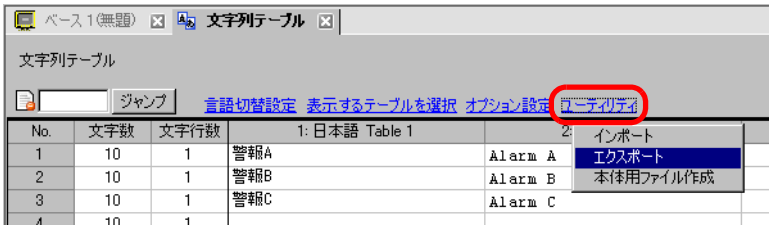
☞「17.9.3 文字列テーブル設定の設定ガイド」（17-59 ページ）

■ エクスポート

登録した文字列テーブルを CSV ファイル形式に書き出します。

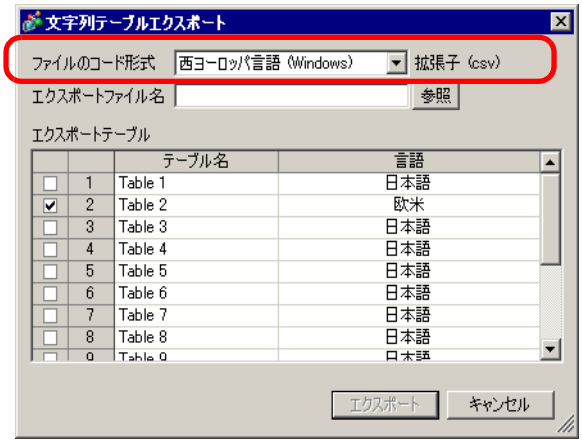


1 [共通設定 (R)] メニューから [文字列テーブル設定 (S)] を選択するか、 をクリックして、登録している文字列テーブル画面を開きます。[ユーティリティ] から [エクスポート] を選択します。



2 [文字列テーブルエクスポート] ダイアログボックスが表示されるので、エクスポートしたいテーブルにチェックが入っていることを確認します。またエクスポートしないテーブルがあればチェックを外します。

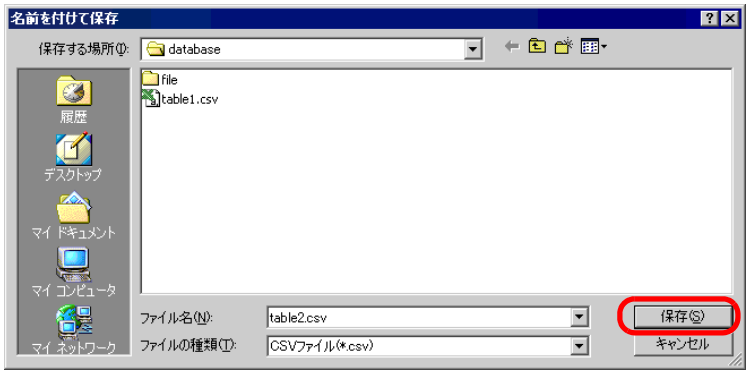
3 書き出すファイルのコード形式を選択します。



MEMO

- 複数の異なる言語を同時にエクスポートする場合は [Unicode] を選択してください。[Unicode] を指定した場合、テキストファイル形式（*.txt）で書き出されます。

4 [参照] をクリックしてファイルを保存する場所とファイル名を設定し、[保存] をクリックします。



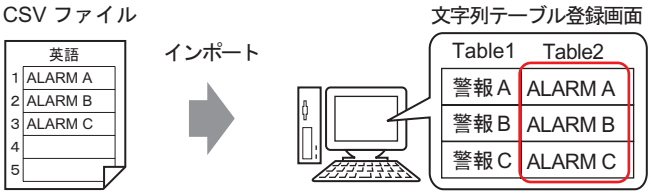
5 [エクスポート] をクリックすると出力が開始されます。ファイル出力が終了すると次のメッセージが表示されるので、[OK] をクリックしてエクスポート完了です。

MEMO

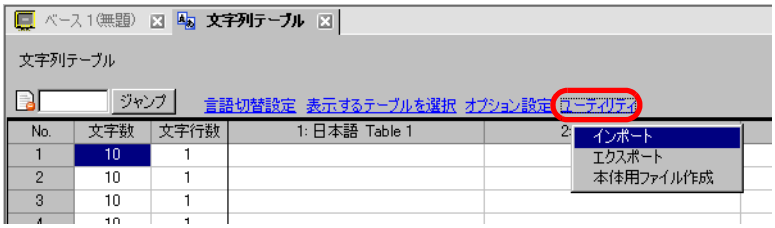
- エクスポートの処理に異常がある場合は、すべてのエクスポート処理がキャンセルされ、文字列テーブルの情報がエクスポート処理の前の状態になります。

■ インポート

文字列テーブルファイル（*.csv）をプロジェクトに取り込みます。

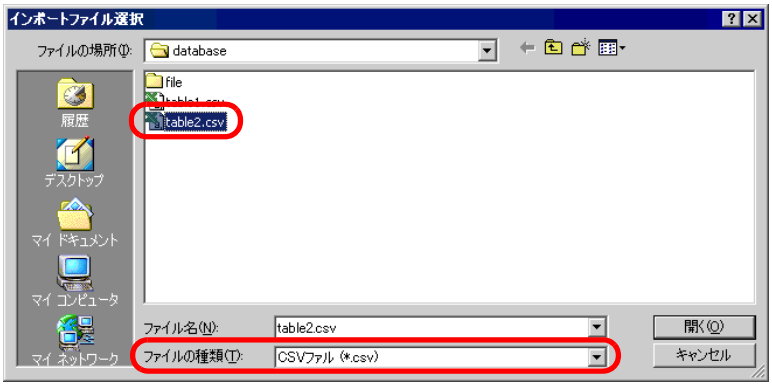


1 [共通設定 (R)] メニューから [文字列テーブル設定 (S)] を選択するか、 をクリックすると次の画面が表示されます。[ユーティリティ] から [インポート] を選択します。

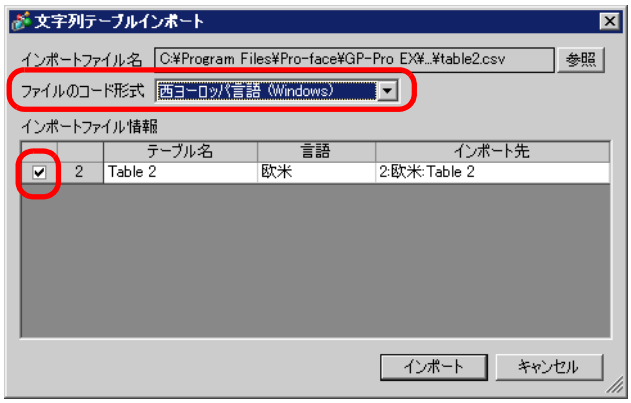


2 [文字列テーブルインポート] ダイアログボックスが表示されるので、[参照] をクリックします。

3 [ファイルの種類] で「CSV ファイル（*.csv）」を選択し、インポートするファイルを選択して [開く] をクリックします。



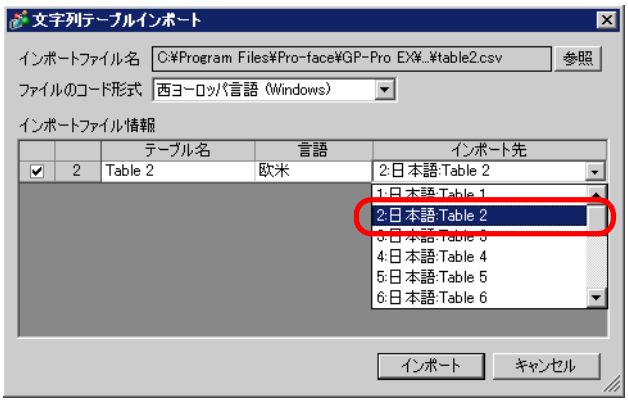
4 インポートしたい文字列テーブルの言語に応じて [ファイルのコード形式] を指定します。
インポートするテーブルにチェックが入っていることを確認します。またインポートしないテーブルがあればチェックを外します。



MEMO

- TXT 形式の文字列テーブルファイル（*.txt）を選択すると、[ファイルのコード形式] は [Unicode] 固定となります。複数の異なる言語を同時にインポートする場合は [Unicode] でインポートしてください。

5 インポート先のテーブルを指定します。指定したテーブルに上書きでインポートされます。



6 [インポート] をクリックします。次のメッセージが表示されるので [OK] をクリックしてインポート完了です。

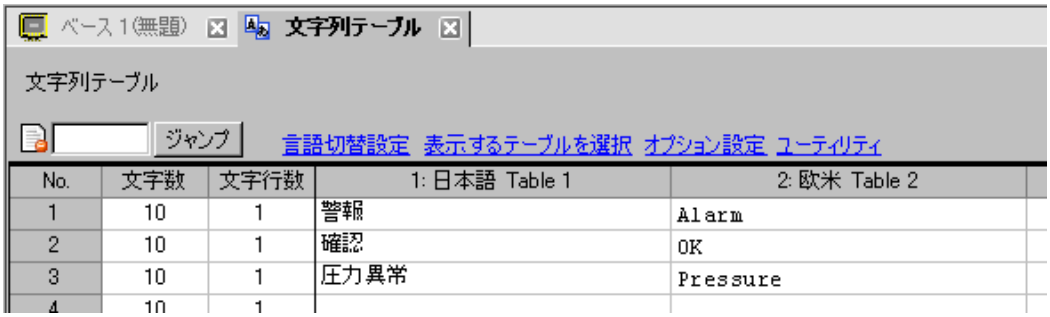
MEMO

- インポートの処理に異常がある場合はすべてのインポート処理がキャンセルされ、文字列テーブルの情報がインポート処理の前の状態になります。
- 文字列テーブルに入力可能な文字列は 1200 字以内です。入力可能な文字数、文字行数の範囲を超えた分の文字列はインポートされません。

17.6.3 文字列テーブルのファイルフォーマット

エクスポートした文字列テーブルファイル（*.txt または *.csv）のフォーマットは次のようになります。

＜文字列テーブル登録画面＞

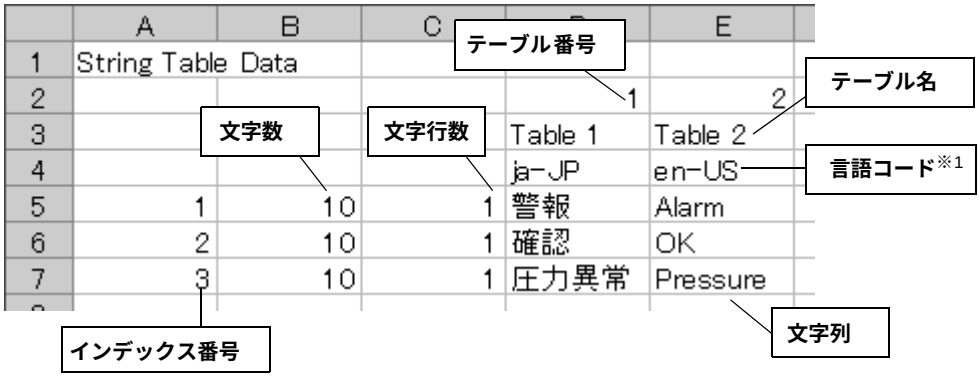


エクスポート

＜ CSV ファイルフォーマット＞

String Table Data ..... **ヘッダー（出力する際に必要です）**
String Table Data ..... **ヘッダー（インポートする際に必要です）**
,"","","1","2" ..... **各テーブルのテーブル番号**
,"","","Table 1","Table 2" ..... **各テーブルのテーブル名**
,"","","ja-JP","en-US" ..... **各テーブルの言語コード**※1
1,"10","1"," **警報** ","Alarm" ..... No.1 **の文字数、文字行数、各テーブルの文字列**
2,"10","1"," **確認** ","OK" ..... No.2 **の文字数、文字行数、各テーブルの文字列**
3,"10","1"," **圧力異常** ","Pressure" ..... No.3 **の文字数、文字行数、各テーブルの文字列**

上記の CSV ファイルを Excel で開いた場合、以下のようになります。



MEMO

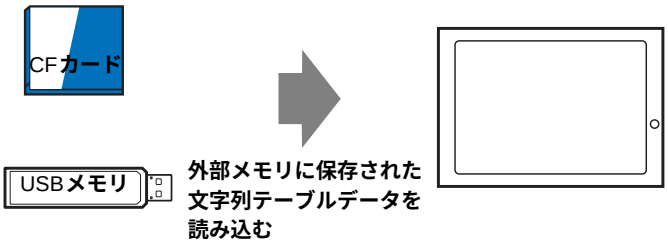
- 入力した文字優先で設定している場合は、文字数と文字行数の設定値を超えても入力した内容がそのままエクスポートされます。

※1 文字列テーブルファイル（*.txt または *.csv）では、各テーブルの言語は次の言語コードで表示されます。

言語	日本語	欧米	中国語（繁体字）	中国語（簡体字）	韓国語	キリル文字	タイ語
言語コード	ja-JP	en-US	zh-TW	zh-CN	ko-KR	ru-ru	th-TH

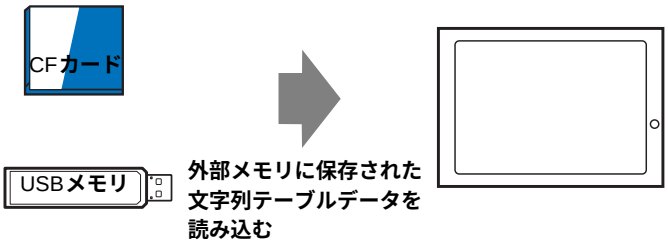
17.7 データ転送をせずに文字列テーブルを変更したい

17.7.1 詳細



あらかじめ文字列テーブルデータを外部メモリに保存しておき、起動時やオフラインメニューで表示器内の文字列テーブルデータを書き換えることができます。
GP-Pro EX を使って転送できない環境でもアラームメッセージや銘板の文字を変更することができます。

17.7.2 設定手順

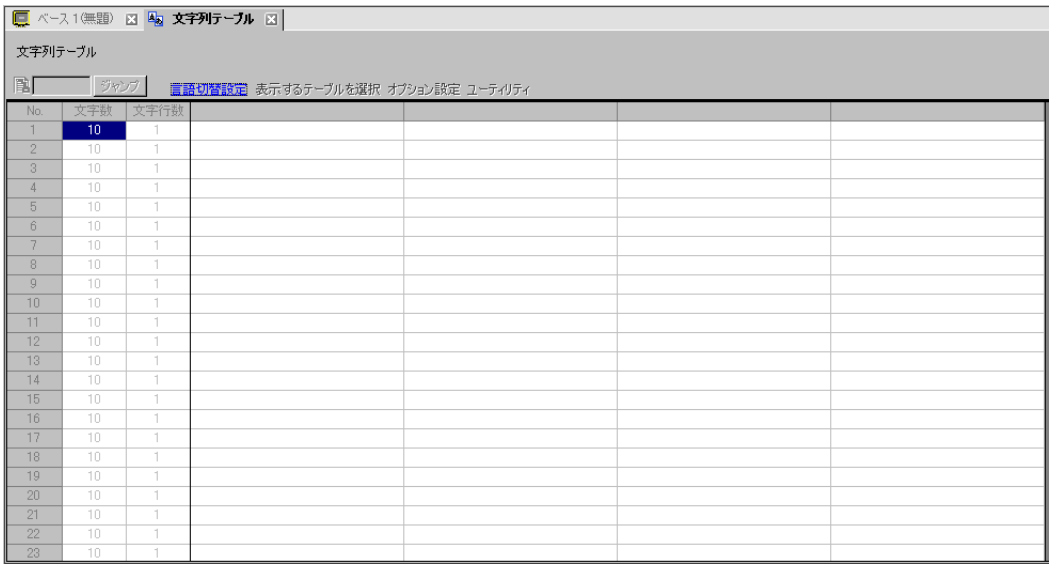


MEMO

- 本機能を使用する場合は、[システム設定ウィンドウ] の [本体設定] から [拡張機能設定] ー [文字列テーブル読み込み設定] で [文字列テーブル読み込みを使用する] にチェックを入れてください。
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「17.9.3 **文字列テーブル設定の設定ガイド**」(17-59 **ページ**)

1 [共通設定 (R)] メニューから [文字列テーブル設定 (S)] を選択するか、 をクリックすると、次の画面が表示されます。



MEMO

- 登録済みの文字列テーブルを編集して使用する場合は、編集したいデータを開いて編集を行ってください。

2 [言語切替設定] をクリックすると次のダイアログボックスが表示されます。[言語切替機能を使用する] にチェックを入れます。

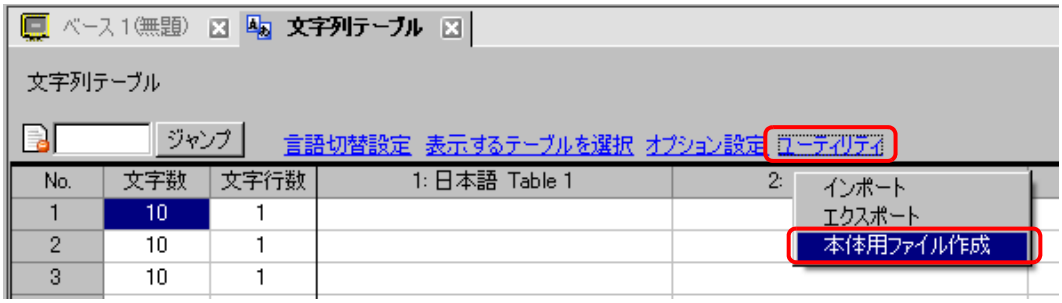
MEMO

- [言語切替機能を使用する] のチェックを外すと、すでに設定されていた文字列テーブルの内容がすべて削除されます。

3 各テーブルで使用する言語を選択し、[OK] をクリックします。

4 [文字数]、[文字行数] を設定し、単語や簡単なメッセージをテーブルごとに入力します。

5 文字列テーブルの入力が完了したら、[ユーティリティ] から [本体用ファイル作成] を選択します。



6 [ファイルのコード形式] を選択します。[出力先フォルダ名] で作成するファイルを保存するフォルダを選択します。

7 [出力テーブル] で出力したいテーブルにチェックが入っていることを確認してください。
[作成] ボタンをクリックすると [出力先フォルダ名] で指定した出力先に文字列テーブルファイルが作成されます。

MEMO

- 文字列テーブルデータを起動時に毎回読み込むよう設定したい場合は、[システム設定ウィンドウ] の [本体設定] から [拡張機能設定] ー [文字列テーブル読み込み設定] で [起動時にファイルを読み込む] にチェックを入れてください。この設定を行うと、表示器の起動に時間がかかる場合があります。
  設定内容の詳細は以下を参照してください。

  ☞「5.17.6 [**システム設定ウィンドウ**] **の設定ガイド ◆ 拡張機能設定**」(5-169 **ページ**)

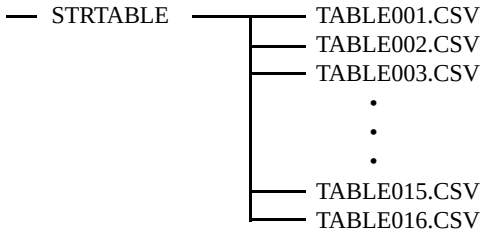
- 任意のタイミングで読み込みを行うには、表示器のオフラインで手動読み込みの開始ボタンにタッチをしてください。
  オフライン画面の操作については保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

17.7.3 本体用ファイルのフォルダ構成とファイルフォーマット

■ フォルダ構成

外部ファイルとして出力したファイルは以下の構成で保存されます。

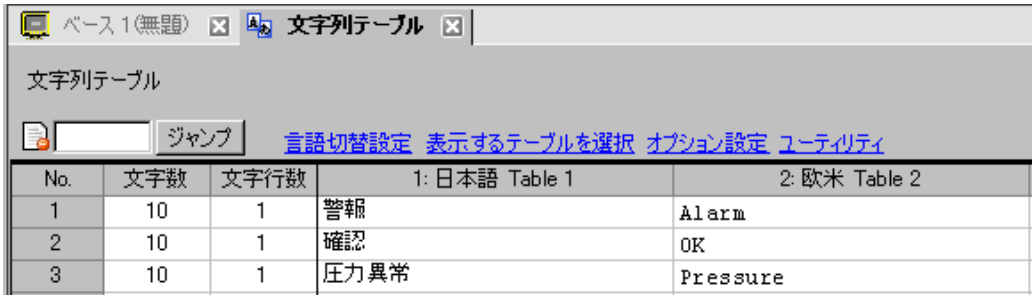
テーブルごとに以下のファイル名で別々のファイルに出力されます。



■ ファイルフォーマット

外部ファイルとして出力したファイル（*.CSV）のフォーマットは次のようになります。

テーブルごとに別々のファイルに出力されます。



No.	文字数	文字行数	1: 日本語 Table 1	2: 欧米 Table 2
1	10	1	警報	Alarm
2	10	1	確認	OK
3	10	1	圧力異常	Pressure

出力

String Table Data ..... **ヘッダー（出力する際に必要です）**
"1" ..... **テーブル番号**
"Table 1" ..... **各テーブルのテーブル名**
"ja-JP " ..... **各テーブルの言語コード**※1
1,"10","1"," **警報** ","Alarm" ..... No.1 **の文字数、文字行数、各テーブルの文字列**
2,"10","1"," **確認** ","OK" ..... No.2 **の文字数、文字行数、各テーブルの文字列**
3,"10","1"," **圧力異常** ","Pressure" ..... No.3 **の文字数、文字行数、各テーブルの文字列**

	A	B	C	D
1	String Table Data			
2				1
3				Table 1
4				ja-JP
5	1	10	1	警報
6	2	10	1	確認
7	3	10	1	圧力異常

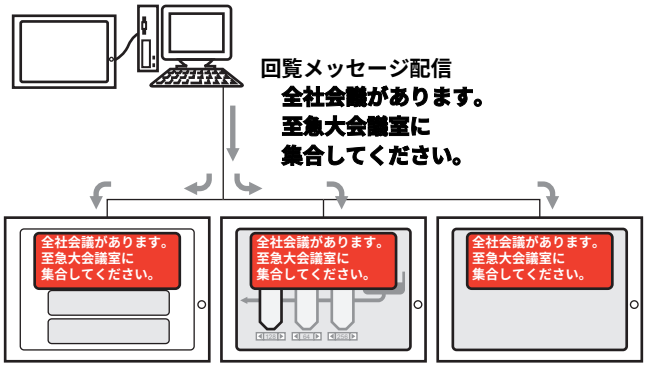
インデックス番号 **文字数** **文字数**

※1 文字列テーブルファイル（*.txt または *.csv）では、各テーブルの言語は次の言語コードで表示されます。

言語	日本語	欧米	中国語（繁体字）	中国語（簡体字）	韓国語	キリル文字	タイ語
言語コード	ja-JP	en-US	zh-TW	zh-CN	ko-KR	ru-ru	th-TH

17.8 複数の GP 画面上で回覧メッセージを表示したい

17.8.1 詳細



上位から送られてきた回覧メッセージを複数の GP の画面上に表示できます。
ウィンドウ画面に回覧メッセージ表示器を配置すると、GP がどの画面を表示していても強制的に回覧メッセージを表示するため、緊急のメッセージもすぐに回覧することができます。

17.8.2 設定手順

MEMO

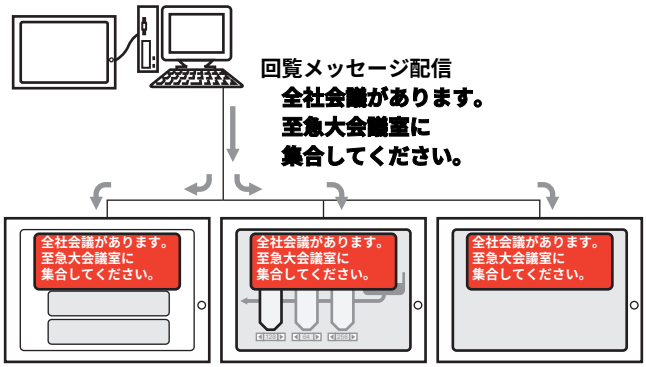
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「17.9.1 メッセージ表示器の設定ガイド ■ 回覧メッセージ」（17-57 ページ）

☞「5.17.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ◆ 動作設定」（5-149 ページ）

- 部品の配置方法やアドレス・形状・色・銘板の設定方法詳細は、「部品の編集手順」を参照してください。

☞「8.6.1 部品の編集手順」（8-42 ページ）

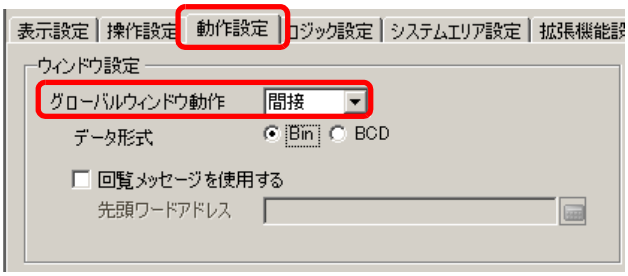


1 [システム設定ウィンドウ] から [本体設定] をクリックします。

MEMO

- ワークスペースに [システム設定ウィンドウ] タブが表示されていない場合は、[表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] を選択し、[システム設定ウィンドウ (S)] を選択します。

2 [動作設定] タブをクリックすると、次のような画面が表示されるので [グローバルウィンドウ動作] で [間接] を選択します。



3 [データ形式] を選択し、[回覧メッセージを使用する] にチェックを入れます。

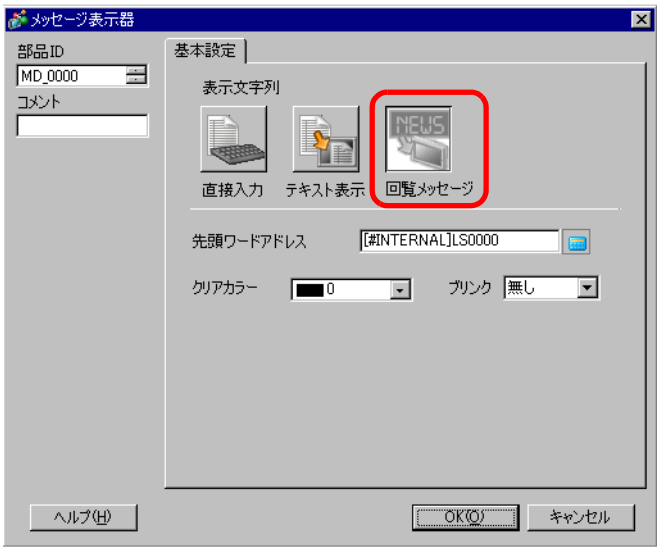
4 [先頭ワードアドレス] に内部アドレスの先頭ワードアドレスを指定します。

をクリックすると、アドレス入力用キーボードが表示されます。

デバイス「LS」を選択し、アドレスに「100」を入力して「Ent」キーを押します。

5 [部品 (P)] メニューの [メッセージ表示器 (M)] を選択するか、 をクリックし、ウィンドウ画面に配置します。

6 配置したメッセージ表示器をダブルクリックすると、設定ダイアログボックスが表示されるので [回覧メッセージ] をクリックします。



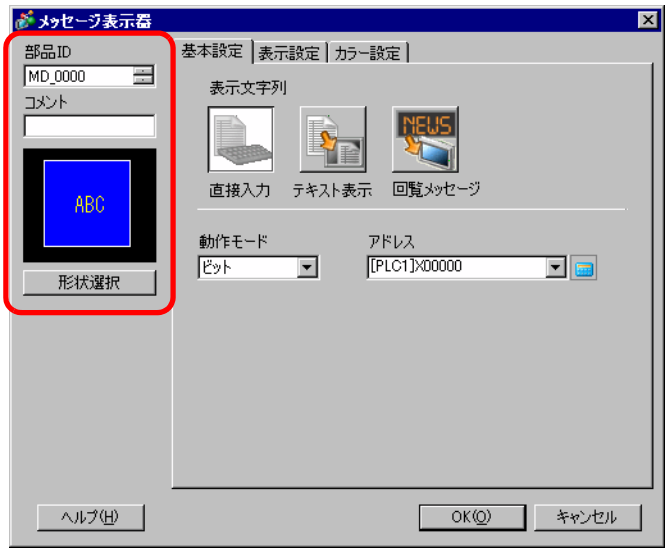
7 [形状選択] でデータ表示部品の形状を選択します。

8 [先頭ワードアドレス] に、メッセージを表示するトリガとなるアドレス（LS100）を設定します。

9 必要に応じて表示範囲の背景の [クリアカラー] や [ブリンク] を設定し、[OK] をクリックします。

17.9 設定ガイド

17.9.1 メッセージ表示器の設定ガイド



設定項目	設定内容
部品 ID	配置された部品には ID 番号が自動的に割り当てられます。 **文字表示部品の** ID：MD_****（数字 4 桁） 英字部分は固定です。数字部分は 0000 ～ 9999 の範囲で変更できます。
コメント	部品に対するコメントを最大 20 文字まで設定できます。
部品形状	[形状選択] で選択した部品の形状と状態が表示されます。
形状選択	形状選択用のダイアログボックスが開き、部品の形状を選択します。
メッセージ表示器の種類	文字表示部品の種類を選択します。 • **直接入力** ビットアドレスの ON/OFF またはワードアドレスに書き込まれた値に応じて、登録したメッセージを切り替えて表示します。 ☞「■ **直接入力**」（17-46 **ページ**） • **テキスト表示** テキストに登録した文字列を切り替えて表示します。 ☞「■ **テキスト表示**」（17-50 **ページ**）
形状なし	[テキスト表示] を選択している場合に、形状のない透明な部品にするかどうかを指定します。

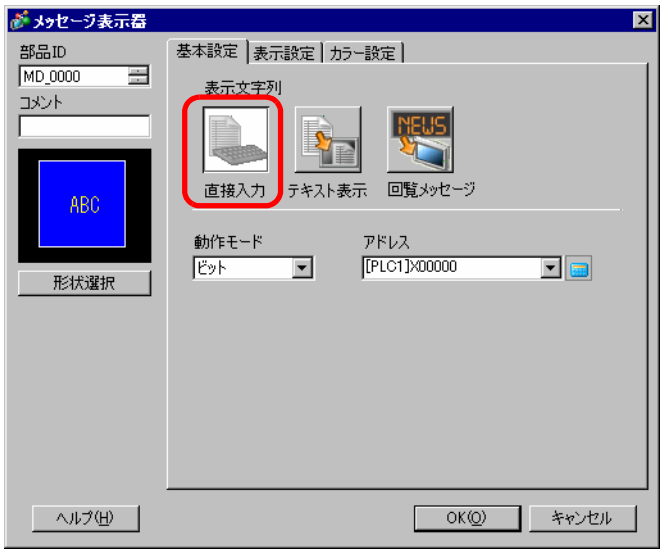
MEMO

- 可視アニメーション設定により可視 / 不可視が切り替わると、メッセージ表示器の動作が異なる場合があります。可視アニメーションについての詳細は、以下を参照してください。

  ☞「20.3 **オブジェクトの表示 / 非表示を必要に応じて切り替えたい**」（20-8 **ページ**）

■ 直接入力

◆基本設定

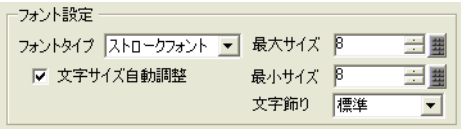


設定項目	設定内容
動作モード	メッセージの切り替え方法を選択します。 • **ビット** ビットアドレスの ON/OFF の変化に応じてメッセージが切り替わります。 • **ワード** ワードアドレスの 00 ビットから連続するビットが示す状態の変化に応じて、メッセージが切り替わります。[表示設定] タブで指定したメッセージ数（2、4、8、16 のいずれか）に応じて、指定ワードアドレスの 00 ビットから自動的にビットが割り付けられます。 **メッセージ数2の場合は00ビットのみを使用します。** **残りのビットはほかの目的に使用できます。** 03 02 01 00 **メッセージ数16の場合、00ビット～03ビットを使用します。** メッセージ数 / 使用ビット数 2 / 1 4 / 2 8 / 3 16 / 4
アドレス	メッセージを表示するトリガとなるアドレスを設定します。

◆表示設定（直接文字列）

設定項目		設定内容
直接文字列		各状態に対して固定の文字列をメッセージ登録枠に直接入力して設定します。
メッセージ数		[基本設定] タブの [動作モード] が [ワード] の場合に、表示するメッセージの数を 2、4、8、16 から選択します。
状態選択		ここで選択した状態に対するメッセージを登録します。[基本設定] タブの [動作モード] が [ビット] の場合は ON/OFF、[ワード] の場合は設定したメッセージの数だけ状態（状態 0 ～状態 15）が表示されます。
フォント設定		表示する文字列のフォント設定を行います。
	フォントタイプ	文字列のフォントタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
	サイズ	文字列のフォントのサイズを設定します。 **標準フォント**：[8 × 8] ～ [64 × 128] まで、横×縦を 8 ドット単位で指定するか、[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] の固定サイズで指定します。固定サイズは半角英数字のみ表示できます。 **ストロークフォント**：6 ～ 127
	表示言語	表示言語を [日本語]、[欧米]、[中国語 (繁体字)]、[中国語 (簡体字)]、[韓国語]、[キリル文字]、[タイ語] から選択します。
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 （固定サイズの [6 × 10] を選択した場合は [標準]、[影付き] から選択） **ストロークフォント：**[標準]、[太字]、[中抜き] から選択
整列		文字列の整列を [左揃え]、[中央揃え]、[右揃え] から選択します。
メッセージ登録		表示したい文字列を入力します。半角 100 文字× 4 行まで入力できます。
コメントコピー		[コメント] に入力している文字列を、[状態選択] で現在選択している状態のメッセージ登録枠にコピーします。
全てにコピー		[状態選択] で現在選択している状態のメッセージ登録枠の文字列を、すべての状態に対してコピーします。
削除		メッセージを削除します。

◆表示設定（文字列テーブル）

設定項目		設定内容
文字列テーブル		文字列テーブルで登録した文字列を参照し、表示します。
状態選択		ここで選択した状態に対するメッセージを登録します。[基本設定] タブの [動作モード] が [ビット] の場合は ON/OFF、[ワード] の場合は設定したメッセージの数だけ状態（状態 0 ～状態 15）が表示されます。
フォント設定		表示する文字列のフォント設定を行います。
	フォントタイプ	文字列のフォントタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
	文字サイズ自動調整	[ストロークフォント] を選択すると、[文字サイズ自動調整] が表示されます。チェックを入れると、配置した部品に合うように文字サイズが自動で調整されます。  ☞「17.9.8 **文字列テーブルを使用した場合の文字列の配置について ◆ 文字サイズ自動調整**」（17-73 **ページ**）
	サイズ	文字列のフォントのサイズを設定します。 **標準フォント**：[8 × 8] ～ [64 × 128] まで、横×縦を 8 ドット単位で指定するか、[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] の固定サイズで指定します。固定サイズは半角英数字のみ表示できます。 **ストロークフォント**： 6 ～ 127 [文字サイズ自動調整] を設定した場合の [最大サイズ] と [最小サイズ] を指定します。このサイズの範囲内で文字の大きさが自動調整されます。
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 （固定サイズの [6 × 10] を選択した場合は [標準]、[影付き] から選択） **ストロークフォント：**[標準]、[太字]、[中抜き] から選択

次のページに続きます。

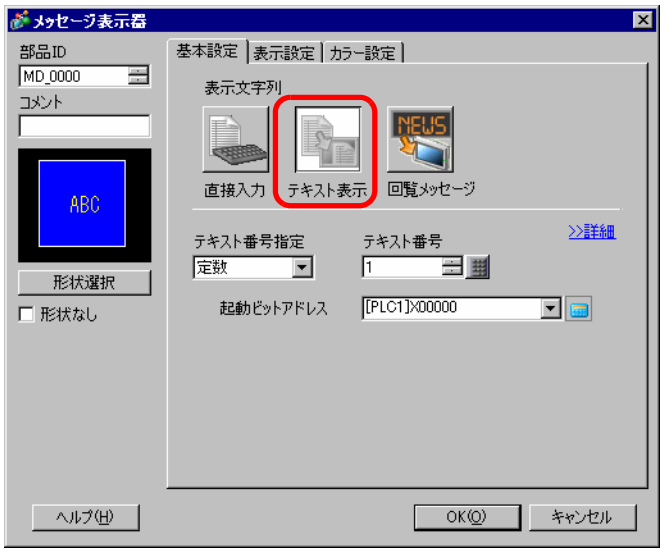
設定項目	設定内容
メッセージ登録	文字列テーブルに登録した文字列の中から、表示させたい文字列を選択します。 MEMO • [文字列追加] を選択すると、文字列テーブルに新規の文字列を追加登録できます。
位置固定	文字列の表示位置を固定するかどうか指定します。指定した場合、メッセージ表示器の中央に文字列表示エリアが固定されます。
センター配置	文字列表示エリアの中央に文字列を表示します。 ☞「17.9.8 **文字列テーブルを使用した場合の文字列の配置について ■ メッセージ表示器**」（17-73 **ページ**）

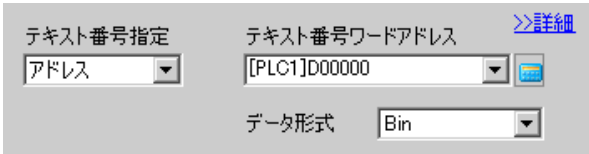
◆ **カラー設定**

設定項目	設定内容
状態選択	ここで選択した状態に対するカラーを設定します。[基本設定] タブの [動作モード] が [ビット] の場合は ON/OFF、[ワード] の場合は設定したメッセージの数だけ状態（状態 0 ～状態 15）が表示されます。
文字カラー	表示する文字の色を設定します。
影カラー	表示する文字の影の色を設定します。[表示設定] タブで [文字飾り] に [影付き] が指定されている場合のみ設定できます。
プレートカラー	メッセージ表示器の色 (表示する文字の背景色) を設定します。
枠カラー	メッセージ表示器の枠の色を設定します。
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[文字カラー]、[影カラー]、[プレートカラー]、[枠カラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 MEMO • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「8.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」（8-35 **ページ**）

■ テキスト表示

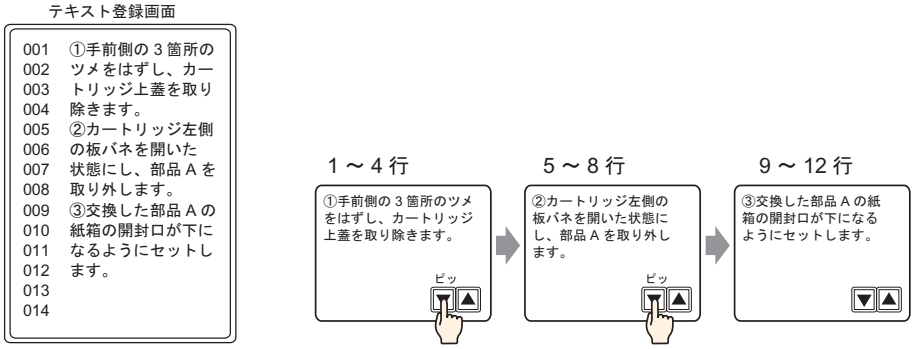
◆基本設定 / 基本



設定項目	設定内容
テキスト番号指定	表示するテキストの番号を指定する方法を選択します。 • **定数** [テキスト番号] に固定の数値を書き込んで指定します。 • **アドレス** テキスト番号を格納するアドレスを指定します。
定数	ビットの ON/OFF で固定のテキストを表示 / 非表示します。
テキスト番号	表示するテキストの番号を 1 ～ 8999 で設定します。
起動ビットアドレス	テキストを表示するためのビットアドレスを設定します。このビットを ON すると [テキスト番号] で指定したテキストを表示し、OFF すると消去します。
アドレス	メッセージ表示器に任意のテキストを表示します。 
テキスト番号ワードアドレス	表示するテキストの番号を格納するアドレスを指定します。このアドレスに格納された番号のテキストを表示します。
データ形式	[テキスト番号ワードアドレス] に格納するテキスト番号のデータ形式を [Bin]、[BCD] から選択します。

◆基本設定 / 詳細

[基本設定] タブで [詳細] をクリックすると、登録したテキストの指定した行から表示させるよう設定できます。

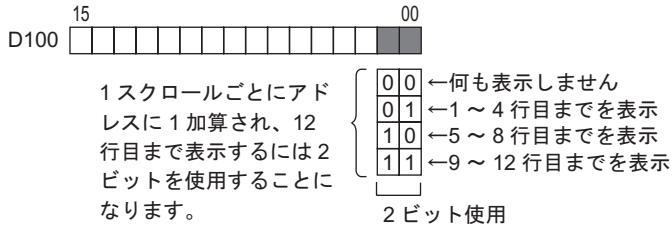
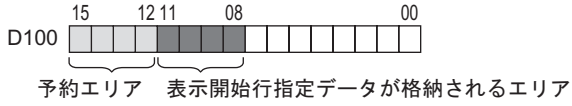
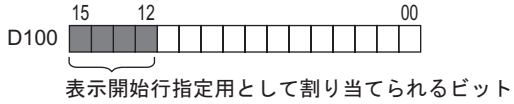


＜ [テキスト番号指定] が [定数] の場合＞

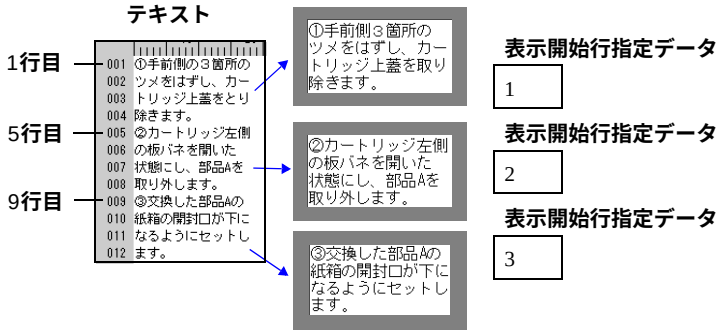
固定のテキストを色々な行から表示します。

設定項目	設定内容
テキスト番号	表示するテキストの番号を 1 ～ 8999 で設定します。
開始行ビットアドレス	テキストの表示開始行指定データを格納するための先頭ビットアドレスを設定します。ビットアドレスまたはビット指定できるワードアドレスが設定できます。表示開始行はここから [ビット数] で指定したビットまでの範囲に格納されるデータと、[スクロール行数] によって決まります。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
ビット数	[開始行ビットアドレス] で設定したアドレスから何ビットを表示開始行指定のために使用するかを 1 ～ 16 で設定します。指定した [スクロール行数] により使用するビット数は異なります。 例）12 行のテキストを 4 行ずつスクロールする場合：2 ビット使用  表示開始行指定データから使用ビット数を設定することにより、同じワードアドレス内の予約エリアを避けて指定したり、空いたエリアをほかの用途に使用できます。 例）開始行ビットアドレス : D100 の 08 ビット　ビット数 : 4 の場合  **MEMO** • [ビット数] を設定するときには、割り当てられるビットが 1 ワード内に収まるようにしてください。2 ワードにまたがるビット数を設定しても、[開始行ビットアドレス] で指定したアドレスが属するワード内のビットしか表示開始行として割り当てられません。 例）開始行ビットアドレス：D100 の 12 ビット、ビット数：10 の場合 

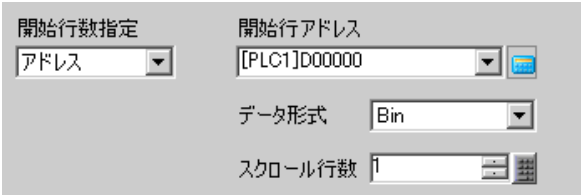
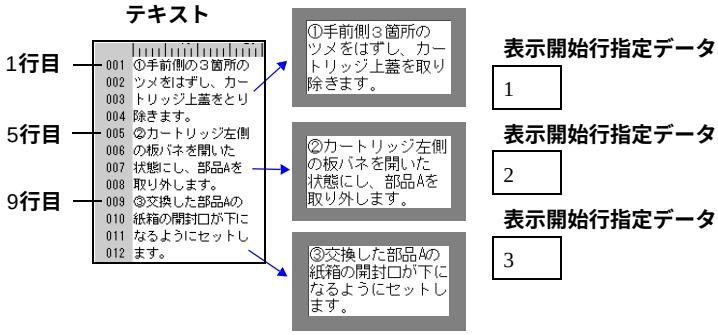
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
スクロール行数	表示開始行指定データの変化によってテキストを何行ずつスクロールするかを１～ 256 で設定します。 表示開始行 = スクロール行数（表示開始行指定データー 1）+1 例）[表示行数] が「4」、スクロール行数が「4」の場合 表示開始行指定データ =1 → 表示開始行 =1 表示開始行指定データ =2 → 表示開始行 =5 表示開始行指定データ =3 → 表示開始行 =9  表示開始行指定データが「0」の場合はテキストは表示されず、メッセージ表示器の表示エリアはクリアカラーで表示されます。

＜[テキスト番号指定] が [アドレス] の場合＞

設定項目	設定内容
テキスト番号ワードアドレス	表示するテキストの番号を格納するアドレスを指定します。このアドレスに格納された番号のテキストを表示します。
データ形式	[テキスト番号ワードアドレス] に格納するテキスト番号のデータ形式を [Bin]、[BCD] から選択します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
開始行数指定	テキストの開始行数を指定する方法を選択します。 • **定数** 表示開始行として固定の数値を書き込んで指定します。 • **アドレス** 表示開始行を格納するアドレスを指定します。
定数	任意のテキストを固定の行から表示します。
開始行数	表示するテキストの表示開始行を 1 ～ 512 で設定します。 表示開始行として設定されたデータに該当する行がない場合には、何も動作を行いません。すでに表示されている行はそのまま表示されます。
アドレス	任意のテキストをいろんな行から表示します。 
開始行 アドレス	テキストの表示開始行を指定するデータを格納しているアドレスを設定します。 表示開始行はここに格納されるデータと [スクロール行数] によって決まります。 表示開始行として設定されたデータに該当する行がない場合には、何も動作を行いません。すでに表示されている行はそのまま表示されます。表示開始行が「0」の場合、表示はクリアされます。
データ形式	テキストの表示開始行を指定するデータ形式を [Bin]、[BCD] から選択します。
スクロール 行数	表示開始行指定データの変化によってテキストを何行ずつスクロールするかを 1 ～ 256 で設定します。 表示開始行 = スクロール行数（表示開始行指定データ－ 1）+1 例） [表示設定] タブの [表示行数] が「4」、スクロール行数が「4」の場合 表示開始行指定データ =1 → 表示開始行 =1 表示開始行指定データ =2 → 表示開始行 =5 表示開始行指定データ =3 → 表示開始行 =9  表示開始行指定データが「0」の場合はテキストは表示されず、メッセージ表示器はクリアカラーで表示されます。

◆表示設定

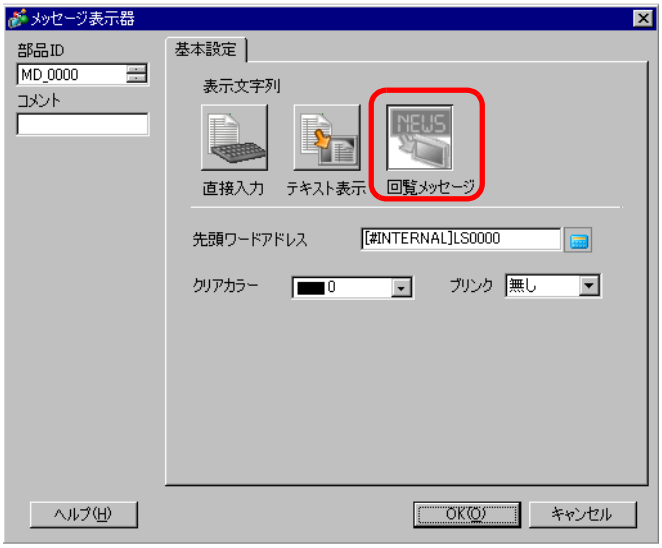
設定項目	設定内容
フォントタイプ	フォントを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
サイズ	文字列のフォントのサイズを設定します。 **標準フォント**：[8 × 8] ～ [64 × 128] まで、横×縦を 8 ドット単位で指定するか、[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] の固定サイズで指定します。固定サイズは半角英数字のみ表示できます。 **ストロークフォント**：6 ～ 127
表示文字数	1 行あたりに表示する文字数を半角 1 ～ 100 で設定します。
表示行数	表示する文字列の行数を 1 ～ 50 行で設定します。

◆カラー設定

設定項目	設定内容
文字カラー	表示する文字の色を設定します。
背景カラー	メッセージ表示器の色（表示する文字の背景色）を設定します。
枠カラー	メッセージ表示器の枠の色を設定します。
クリアカラー	メッセージがクリアされたとき（該当する番号のテキストがない場合など）の表示エリアの色を設定します。
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[文字カラー]、[背景カラー]、[枠カラー]、[クリアカラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「8.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」(8-35 **ページ**)

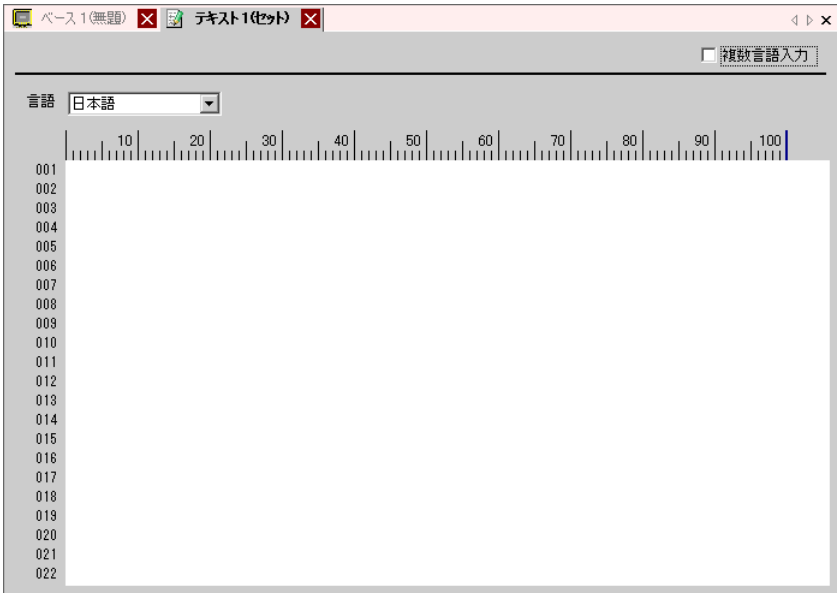
■ 回覧メッセージ

◆基本設定



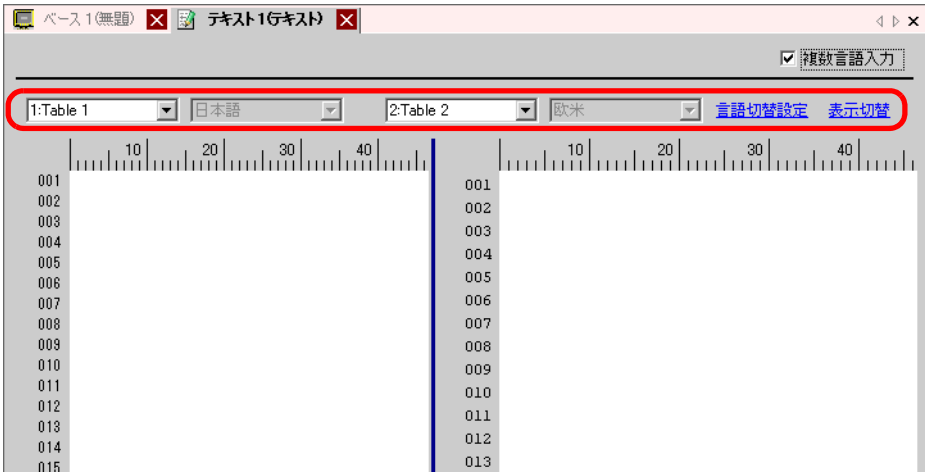
設定項目	設定内容
先頭ワードアドレス	メッセージを表示するトリガとなる先頭の内部アドレス (LS エリア、USER エリア、メモリリンク専用システムエリア) を設定します。
クリアカラー	メッセージがクリアされたときの表示エリアの色を設定します。
ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを設定します。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「8.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」(8-35 **ページ**)

17.9.2 共通設定（テキスト登録）の設定ガイド



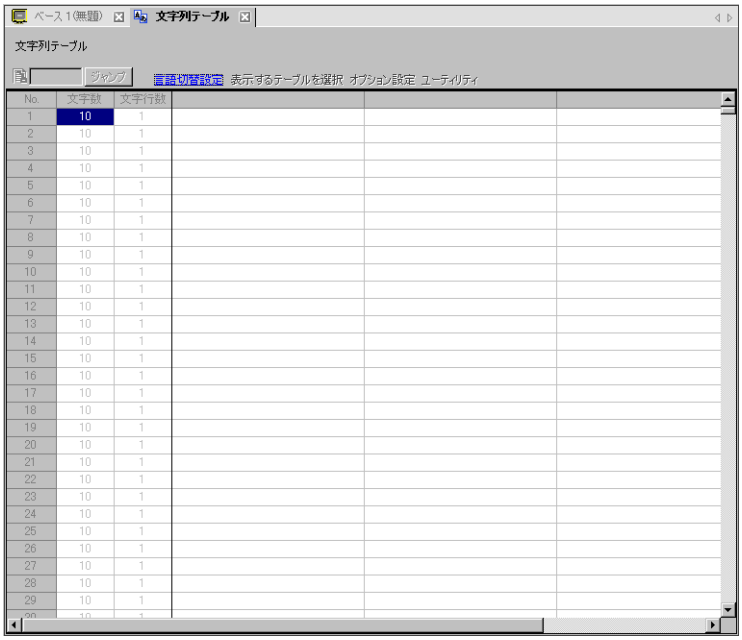
設定項目	設定内容
複数言語入力	ここにチェックを入れると、複数言語のテキストが入力できます。
言語	テキストの言語を [日本語]、[欧米]、[中国語（繁体字）]、[中国語（簡体字）]、[韓国語]、[キリル文字]、[タイ語] から選択します。
テキスト入力枠	1 行あたり半角 100 文字までで、最大 512 行まで文字列を入力できます。

■ テキスト（複数言語入力を行う）の設定ガイド



設定項目	設定内容
言語切替設定	[言語切替設定] ダイアログボックスが開き、各テーブルの言語を指定します。 ☞「■ [言語切替設定] ダイアログボックス」（17-61 ページ）
表示切替	テーブルを 1 つだけ表示するか 2 つ並べて表示するかを切り替えます。
テーブル選択	テキストを登録するテーブルを [1:Table 1] ～ [16:Table 16] から選択します。

17.9.3 文字列テーブル設定の設定ガイド



設定項目	設定内容
未使用文字列一覧	をクリックして [未使用文字列一覧] ダイアログボックスを表示します。使用しない文字列を一括または個別で選択して、削除することができます。
ジャンプ	入力した登録番号へジャンプします。
言語切替設定	[言語切替設定] ダイアログボックスを表示します。 ☞「■ [**言語切替設定**] **ダイアログボックス**」(17-61 **ページ**)
表示するテーブルを選択	文字列テーブル設定画面に表示するテーブルを指定します。文字列テーブルの登録に必要なテーブルにチェックを入れます。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
インポート	文字列テーブルを CSV ファイル (または TXT ファイル) でインポートします。 ☞「■ [**文字列テーブルインポート**] **ダイアログボックス**」(17-63 **ページ**)
エクスポート	文字列テーブルを CSV ファイル (または TXT ファイル) でエクスポートします。 ☞「■ [**文字列テーブルエクスポート**] **ダイアログボックス**」(17-62 **ページ**)
オプション設定	メッセージ入力時の動作を選択します。[表示 (V)] ー [オプション設定 (O)] の [文字列テーブル] 設定画面を開きます。 • **設定値優先** [文字列テーブル] の [文字数] で設定した文字数以上は入力できません。[Alt]+[Enter] キーを押しても改行できません。 • **入力文字優先** [文字列テーブル] の [文字数]、[文字行数] での設定にかかわらず、入力した文字を表示します。[Alt]+[Enter] キーを押すと改行できます。
ユーティリティ	
本体用ファイル作成	文字列テーブルごとに別々のフォルダにエクスポートし、指定したフォルダに保存します。
文字列テーブル	文字列を登録します。10000 個まで登録できます。
No.	文字列テーブルのインデックス番号（行番号）を表示します。
文字数	1 行あたりの文字数を半角 1 ～ 100 で設定します。ただし [文字数] × [文字行数] は半角 1200 文字以内になるように設定してください。 **MEMO** • 各行の [文字数] および [文字行数] は全テーブル共通です。
文字行数	文字行数を 1 ～ 40 で設定します。ただし [文字数] × [文字行数] は半角 1200 文字以内になるように設定してください。 **MEMO** • 各行の [文字数] および [文字行数] は全テーブル共通です。 • 複数行に渡る場合は Alt+Enter で改行します。改行をすると「\n」で表示されます。 • アラームメッセージは複数行の文字列を選択しても最初の 1 行しか表示されません。
文字列入力枠	[言語切替設定] で設定したテーブルごとに、表示したい文字列を入力します。

■ [言語切替設定] ダイアログボックス

文字列テーブルの言語を設定し、言語切り替え機能を制御するアドレスを設定します。

設定項目	設定内容
言語切替機能を使用する	言語切替機能を使用するかどうかを設定します。
切替制御アドレス	表示するテーブル番号を格納するアドレスを設定します。 **MEMO** • 何も設定していないテーブルの番号を指定した場合は、文字列やテキストの入っていない文字列表示エリアのみの表示となります。
初期テーブル	[切替制御アドレス] に「0」が入っているときに表示するテーブルを設定します。
テーブル名	各テーブルのテーブル名を 30 文字以内で設定します。
言語	各テーブルの言語を [日本語]、[欧米]、[中国語（繁体字）]、[中国語（簡体字）]、[韓国語]、[キリル文字]、[タイ語] から選択します。

■ [文字列テーブルエクスポート] ダイアログボックス

登録した文字列テーブルデータを、TXT ファイル形式または CSV ファイル形式で保存します。

設定項目	設定内容
ファイルのコード形式	エクスポートするファイルのコード形式を [Unicode]、[日本語 (シフト JIS)]、[西ヨーロッパ言語 (Windows)]、[繁体字中国語 (Big5)]、[簡体字中国語 (GB2312)]、[韓国語]、[キリル語 (Windows)]、[タイ語 (Windows)] から選択します。 **MEMO** • 複数の異なる言語を同時にエクスポートする場合は [Unicode] を指定してください。ほかのコード形式を選択すると文字が正しくファイル出力されません。 • [Unicode] を選択した場合のファイルの拡張子は「txt」、それ以外を選択した場合は「csv」となります。
エクスポートファイル名	エクスポートするファイル名を指定します。直接ファイル名を入力するか、[参照] をクリックしてファイルの保存場所とファイル名を指定できます。
エクスポートテーブル	エクスポートする文字列テーブルを選択します。左側にチェックの入っている文字列テーブルがエクスポートされます。

■ [文字列テーブルインポート] ダイアログボックス

文字列テーブルファイル (*.txt または *.csv) をプロジェクトに取り込みます。

設定項目	設定内容
インポートファイル名	[参照] をクリックして、インポートするファイルを選択します。
ファイルのコード形式	インポートする文字列テーブルファイルが CSV 形式ファイル (*.csv) の場合、コード形式を [日本語 (シフト JIS)]、[西ヨーロッパ言語 (Windows)]、[繁体字中国語 (Big5)]、[簡体字中国語 (GB2312)]、[韓国語]、[キリル語 (Windows)]、[タイ語 (Windows)] から選択します。 インポートするファイルがテキスト形式 (*.txt) の場合は [Unicode] 固定です。 **MEMO** • 複数の異なる言語を同時にインポートする場合は [Unicode] を指定してください。
インポートファイル情報	インポートするファイルの [テーブル名] と [言語] が表示されます。チェックの入っているテーブルが、[インポート先] で選択した文字列テーブルに上書きでインポートされます。

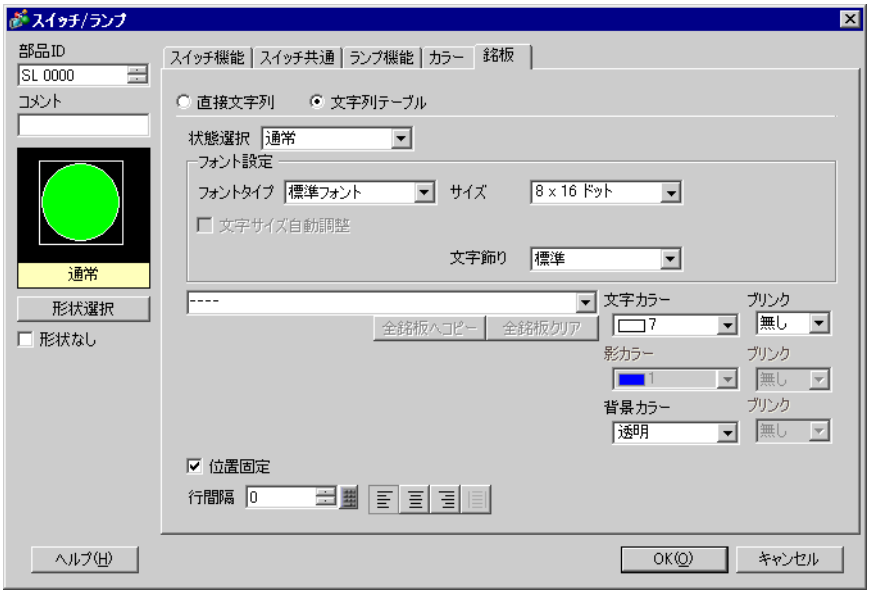
■ [本体用ファイル作成] ダイアログボックス

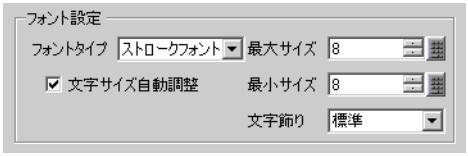
設定項目	設定内容
ファイルのコード形式	作成するファイルのコード形式を [日本語 (シフト JIS)]、[西ヨーロッパ言語 (Windows)]、[繁体字中国語 (Big5)]、[簡体字中国語 (GB2312)]、[韓国語]、[キリル語 (Windows)]、[タイ語 (Windows)] から選択します。
出力フォルダ名	作成するファイルを保存するフォルダ名を設定します。

MEMO

- 作成したファイルはインポートできません。

17.9.4 スイッチランプ部品 － 銘板（文字列テーブルを使用する場合）の設定ガイド



設定項目	設定内容
文字列テーブル	文字列テーブルで登録した文字列を参照し、銘板として表示します。
状態選択	ランプの状態を選択します。ランプ機能を使用しない場合は [通常] のみです。ランプ機能を使用する場合、銘板をランプの状態ごとに設定できます。 **MEMO** • インターロック中、ディレイ中の銘板を設定したい場合は、[スイッチ共通] タブの詳細設定で [インターロック中状態表示を設定する]、[ディレイ中状態表示を設定する] を指定することで [状態選択] の選択肢に追加されます。
フォント設定	銘板となる文字列のフォント設定を行います。
フォントタイプ	文字列のフォントタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
文字サイズ自動調整	[ストロークフォント] を選択すると、[文字サイズ自動調整] が表示されます。チェックを入れると、配置した部品に合うように文字サイズが自動で調整されます。 
サイズ	文字列のフォントのサイズを設定します。 **標準フォント：**[8 × 8] ～ [64 × 128] まで、横×縦を 8 ドット単位で指定するか、[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] の固定サイズで指定します。固定サイズは半角英数字のみ表示できます。 **ストロークフォント：** 6 ～ 127 [文字サイズ自動調整] を設定した場合の [最大サイズ] と [最小サイズ] を指定します。このサイズの範囲内で文字の大きさが自動調整されます。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 （固定サイズの [6 × 10] を選択した場合は [標準]、[影付き] から選択） **ストロークフォント：**[標準]、[太字]、[中抜き] から選択
文字列		銘板として使用する文字列を、登録した文字列テーブルの中から選択します。 [文字列追加] を選択するとダイアログボックスが表示され、新規の文字列を文字列テーブルに追加登録できます。
文字カラー		銘板の文字色を設定します。
影カラー		銘板の文字の影色を設定します。 **MEMO** • [文字飾り] で [影付き] を選択した場合のみ設定できます。
背景カラー		文字の背景色を設定します。
ブリンク		点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[文字カラー]、[影カラー]、[背景カラー] にブリンクの設定が可能です。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「8.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」（8-35 **ページ**）
位置固定		銘板の表示位置を、部品中央に固定するかどうかを設定します。 ☞「17.9.8 **文字列テーブルを使用した場合の文字列の配置について ■ スイッチランプの銘板**」（17-71 **ページ**）
行間隔		行間隔を 0 ～ 255 で指定します。
整列		文字列の整列を [左揃え]、[右揃え]、[中央揃え] から選択します。

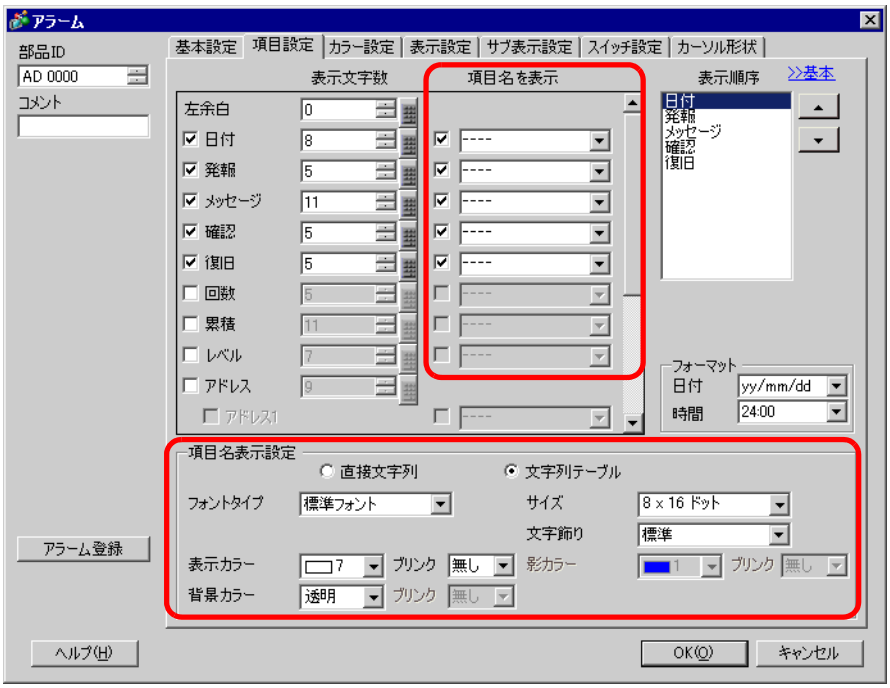
17.9.5 描画の文字列（文字列テーブルを使用する場合）の設定ガイド

設定項目	設定項目
文字列テーブル	文字列テーブルで登録した文字列を参照し、表示します。
フォント設定	表示する文字列のフォント設定を行います。
フォントタイプ	表示する文字列のフォントタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
文字サイズ自動調整	[ストロークフォント] を選択すると、[文字サイズ自動調整] が表示されます。チェックを入れると、配置した部品に合うように文字サイズが自動で調整されます。 **MEMO** • [方向] で [縦書き] を選択した場合は、無効になります。
文字サイズ	文字列のフォントのサイズを設定します。 **標準フォント：**[8 × 8] ～ [64 × 128] まで、横×縦を 8 ドット単位で指定するか、[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] の固定サイズで指定します。固定サイズは半角英数字のみ表示できます。 **ストロークフォント：** 6 ～ 127 [文字サイズ自動調整] を設定した場合の [最大サイズ] と [最小サイズ] を指定します。このサイズの範囲内で文字の大きさが自動調整されます。

次のページに続きます。

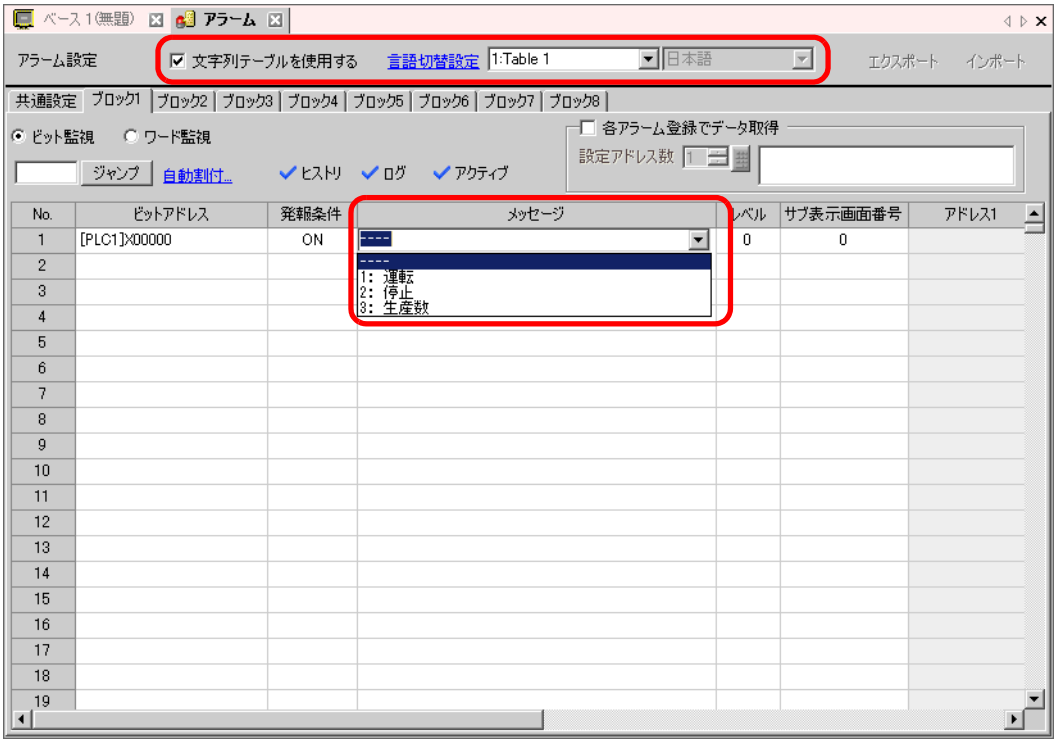
設定項目		設定項目
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 （固定サイズの [6 × 10] を選択した場合は [標準]、[影付き] から選択） **ストロークフォント：**[標準]、[太字]、[中抜き] から選択
	方向	「横書き」「縦書き」から選択します。
	文字揃え	[方向] で [縦書き] を選択した場合に、全角文字と半角文字が混在している文字列の中心を揃えます。
カラー		表示する文字列のカラーの設定を行います。
	文字カラー	文字の色を設定します。
	背景カラー	文字の背景色を設定します。
	影カラー	[文字飾り] で [影付き] を選択した場合のみ、影の色を設定します。
ブリンク		点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[文字カラー]、[背景カラー]、[影カラー] それぞれにブリンクの設定が可能です。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞「8.5.1 **カラーを設定する ■ 対応色数一覧**」（8-35 **ページ**）
整列		[方向] で [横書き] を選択した場合に、文字列の整列を [左揃え]、[中央揃え]、[右揃え] から選択します。
行間隔		行間隔を 0 ～ 255 で指定します。
文字列		表示する文字列を、登録した文字列テーブルの中から選択します。 [文字列追加] を選択するとダイアログボックスが表示され、新規の文字列を文字列テーブルに追加登録できます。
センター配置		[方向] で [横書き] を選択した場合に、文字列表示エリアの中央に文字列を表示するかどうかを指定します。 ☞「17.9.8 **文字列テーブルを使用した場合の文字列の配置について ■ 描画の文字列**」（17-72 **ページ**）

17.9.6 アラーム部品 － 項目設定 / 詳細（文字列テーブル）の設定ガイド



設定項目		設定内容
項目名を表示		アラーム部品に表示する項目のうち、項目名を表示したいものにチェックを入れます。 [項目名表示設定] で [文字列テーブル] を選択した場合、項目名として使用する文字列を、登録した文字列テーブルの中から選択します。[文字列追加] を選択するとダイアログボックスが表示され、新規の文字列を文字列テーブルに追加登録できます。
項目名表示設定		項目名の表示の設定を行います。
	フォントタイプ	表示する項目名のフォントのタイプを [標準フォント]、[ストロークフォント] から選択します。
	サイズ	項目名のフォントサイズを設定します。 **標準フォント**：[8 × 8] ～ [64 × 128] まで、横×縦を 8 ドット単位で指定するか、[6 × 10]、[8 × 13]、[13 × 23] の固定サイズで指定します。固定サイズは半角英数字のみ表示できます。 **ストロークフォント**：6 ～ 127
	文字飾り	フォントの文字飾りを選択します。 **標準フォント：**[標準]、[太字]、[影付き] から選択 （固定サイズの [6 × 10] を選択した場合は [標準]、[影付き] から選択） **ストロークフォント：**[標準]、[太字]、[中抜き] から選択
	表示カラー	項目名の文字色を設定します。
	ブリンク	点滅表示の有無および点滅の速さを指定します。[表示カラー] にブリンクの設定が可能です。 **MEMO** • 本体機種とシステム設定の [色数設定] によりブリンクを設定できない場合があります。 ☞ **「8.5.1 カラーを設定する ■ 対応色数一覧」（8-35 ページ）**

17.9.7 アラーム設定（文字列テーブルを使用する）の設定ガイド



設定項目	設定内容
文字列テーブルを使用する	文字列テーブルに登録された文字列をアラームメッセージとして使用するかどうかを指定します。指定した場合、システム運転中でも表示するアラームメッセージをほかの言語に切り替えることができます。 **MEMO** • すでにアラームメッセージを直接入力して設定していた場合、この項目にチェックを入れると、設定していたメッセージはすべて削除されます。 • [言語設定] や [文字列テーブルを使用する] の設定は、すべてのアラーム（アラーム履歴の各ブロック、流れ表示、サマリ表示）に共通です。直接入力したメッセージと文字列テーブルから参照したメッセージを同時に表示させることはできません。
言語切替設定	[言語切替設定] ダイアログボックスを表示します。 ☞**「■ [言語切替設定] ダイアログボックス」**（17-61 **ページ**）
文字列テーブル	使用する文字列テーブルを選択します。
メッセージ	[文字列テーブル] で選択したテーブルに登録されている文字列の中から、メッセージとして使用する文字列を選択します。 **MEMO** • 複数行の文字列を選択した場合は、最初の 1 行のみ表示されます。

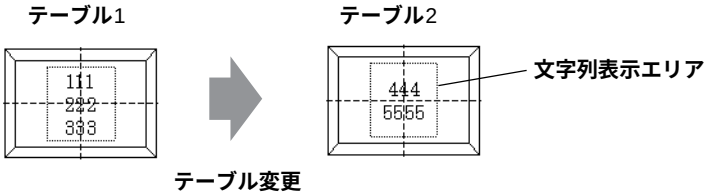
17.9.8 文字列テーブルを使用した場合の文字列の配置について

■ スイッチランプの銘板

◆文字列表示エリア

部品の文字列表示エリアは、文字列テーブルで登録した [文字数] × [文字行数] に対応しています。文字列テーブルに実際に入力した文字数が、設定した [文字数] × [文字行数] より少なくても、文字列表示エリアのサイズは変わりません。文字列は常に文字列表示エリアの中央に表示されます。

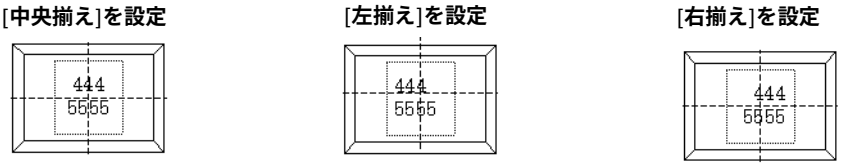
例）文字数：6、文字行数：3 の場合



MEMO
- [ストロークフォント] 選択時は、[文字サイズ自動調整] を設定すると、部品内に収まる範囲で文字サイズが自動調整されます。

◆整列（[左揃え]、[中央揃え]、[右揃え]）

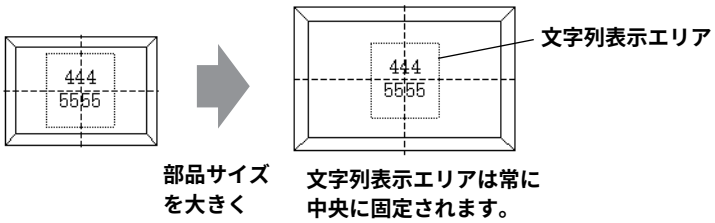
文字列テーブルで複数の文字行数を設定した場合、文字数の最も多い行（下図では 2 行目「5555」）を基準にしてほかの行を整列（[左揃え]、[中央揃え]、[右揃え]）できます。



◆位置固定

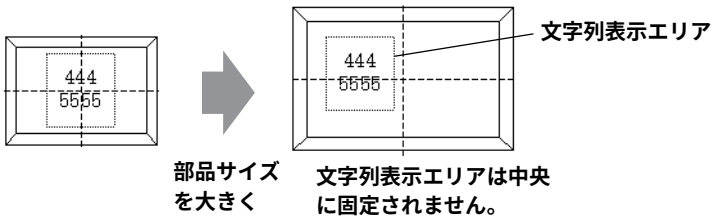
[位置固定] を設定した場合

文字列表示エリアは常に部品の中央に固定されます。



[位置固定] を設定しなかった場合

文字列表示エリアを部品上の任意の位置に移動できます。

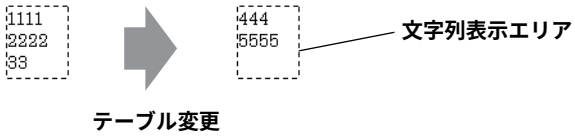


■ 描画の文字列

◆文字列表示エリア

描画 [文字列] の文字列表示エリアは、文字列テーブルで登録した [文字数] × [文字行数] に対応して表示されます。文字列テーブルに実際に入力した文字数が、設定した [文字数] × [文字行数] より少なくても、文字列表示エリアのサイズは変わりません。

例）文字数：6、文字行数：3 の場合



MEMO

- [ストロークフォント] 選択時は、[文字サイズ自動調整] を設定すると、部品内に収まる範囲で文字サイズが自動調整されます。

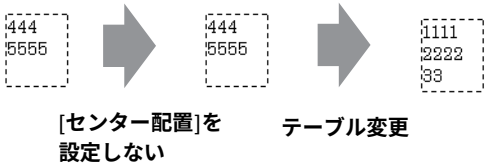
◆センター配置

文字列表示エリアの中央に文字列をセンタリングして表示します。

そのため、テーブル 1 で 2 行の文字列、テーブル 2 で 3 行の文字列を指定した場合でも、常に文字列表示エリアの中心に文字列が表示されます。

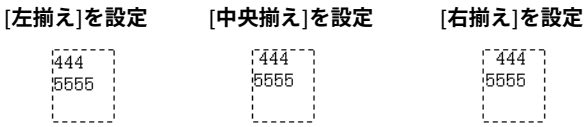
[センター配置] を設定した場合

[センター配置] を設定しなかった場合



◆整列（[左揃え]、[中央揃え]、[右揃え]）

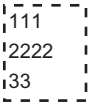
文字列テーブルで複数の文字行数を設定した場合、文字数の最も多い行（下図では 2 行目「5555」）を基準にしてほかの行を整列（[左揃え]、[中央揃え]、[右揃え]）できます。



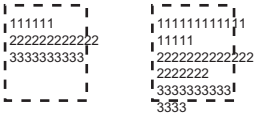
◆文字サイズ自動調整

[ストロークフォント] 選択時に、[文字サイズ自動調整] を設定した場合、指定した最小サイズまで文字を小さくして表示します。ただし、最小サイズにしても枠に入りきらない場合、はみ出した文字は表示されません。

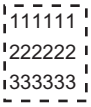
すべて表示される場合



最小にしても収まらない場合



[ストロークフォント] 選択時に、[文字サイズ自動調整] を設定した場合、文字は指定した最大サイズまでしか拡大されません。



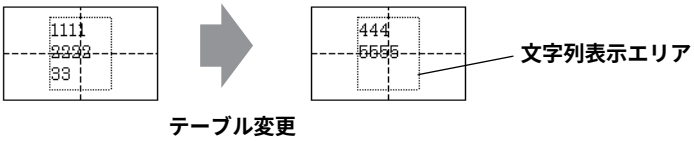
MEMO
- 縦書きの場合、文字サイズ自動調整は設定できません。

■ メッセージ表示器

◆文字列表示エリア

メッセージ表示器の文字列表示エリアは、文字列テーブルで登録した [文字数] × [文字行数] に対応しています。文字列テーブルに実際に入力した文字数が、設定した [文字数] × [文字行数] より少なくても、文字列表示エリアのサイズは変わりません。

例）文字数：6、文字行数：3 の場合



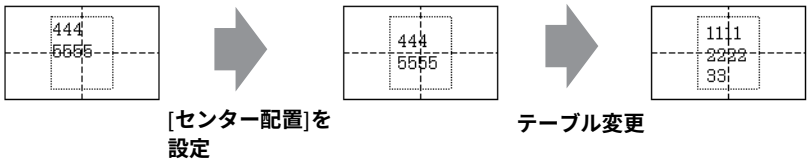
MEMO
- [ストロークフォント] 選択時は、[文字サイズ自動調整] を設定すると、部品内に収まる範囲で文字サイズが自動調整されます。

◆センター配置

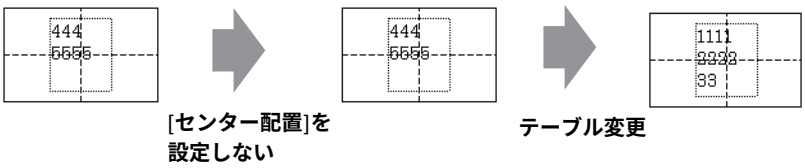
文字列表示エリアの中央に文字列を表示します。

そのため、テーブル 1 で 2 行の文字列、テーブル 2 で 3 行の文字列を指定した場合でも、常に文字列表示エリアの中心に文字列が表示されます。

[センター配置] を設定した場合

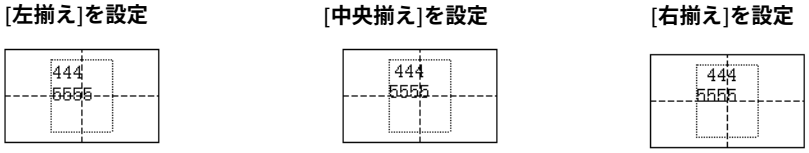


[センター配置] を設定しなかった場合



◆**整列（[左揃え]、[中央揃え]、[右揃え]）**

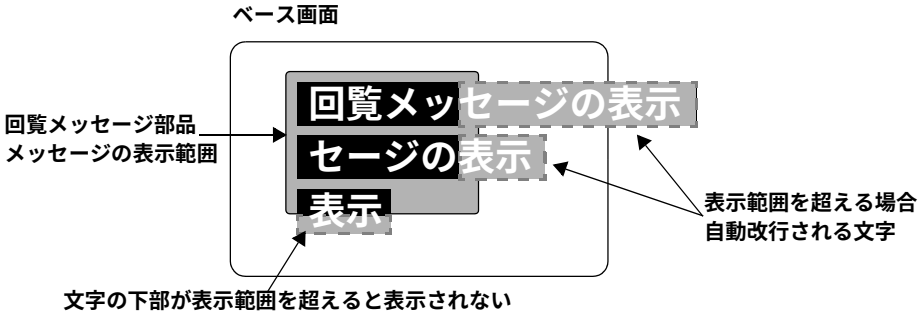
文字列テーブルで複数の文字行数を設定した場合、文字数の最も多い行（下図では 2 行目「5555」）を基準にしてほかの行を整列（[左揃え]、[中央揃え]、[右揃え]）できます。



17.9.9 回覧メッセージ部品について

■ メッセージの表示範囲

- メッセージの表示範囲が 1 行を超える場合、表示範囲と文字幅に応じて自動改行されます。
- フォントサイズにより表示できる文字数が異なります。
- 文字の下部が表示範囲を超える場合、表示範囲外の部分は表示されません。



■ 指定アドレスのフォーマット

指定された内部アドレスは、次のフォーマットに従って値を使用します。

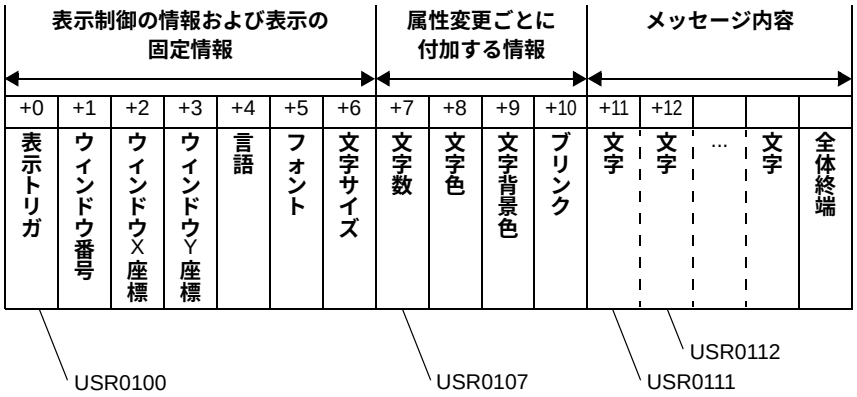
アドレス	設定項目	
指定アドレス+0	表示トリガ	
指定アドレス+1	ウィンドウ番号	回覧メッセージ部品としては、使用しない予約アドレスとなります。
指定アドレス+2	ウィンドウ表示位置の X 座標	
指定アドレス+3	ウィンドウ表示位置の Y 座標	
指定アドレス+4	言語	
指定アドレス+5	フォント	
指定アドレス+6	文字サイズ	
指定アドレス+7	文字数	
指定アドレス+8	文字色	
指定アドレス+9	文字背景色	
指定アドレス+10	ブリンク	
指定アドレス+11	文字	
:	:	
指定アドレス+**n**	文字	
指定アドレス+**n**+1	文字数	
指定アドレス+**n**+2	文字色	
指定アドレス+**n**+3	背景色	
指定アドレス+**n**+4	ブリンク	
指定アドレス+**n**+5	文字	
:	:	
指定アドレス+**n**+**x**	文字	
指定アドレス+**n**+**x**+1	文字終端（文字数）	

設定項目は、指定した内部アドレスのデバイスサイズに応じて格納されます。

- 16 **ビットデバイスを指定した場合**

  デバイスサイズに応じたワード単位として使用します。

  例) 指定アドレスを USR0100 とした場合

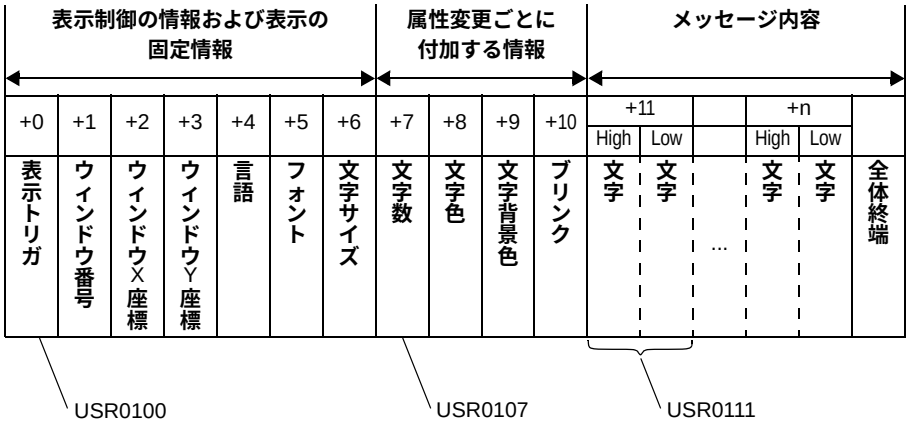


- 32 **ビットデバイスを指定した場合**

  デバイスサイズに応じたダブルワード単位として使用します。

  ただし、設定項目の [文字] は、ワード単位として使用します。

  例) 指定アドレスを LS0100 とした場合



◆指定アドレス +0：表示トリガ

メッセージの表示 / 消去を設定します。

...	5	4	3	2	1	0
予約		表示状態	予約			表示／消去

- 指定デバイスのサイズ (16 ビット /32 ビットデバイス) に関係なく、同じビットを使用します。

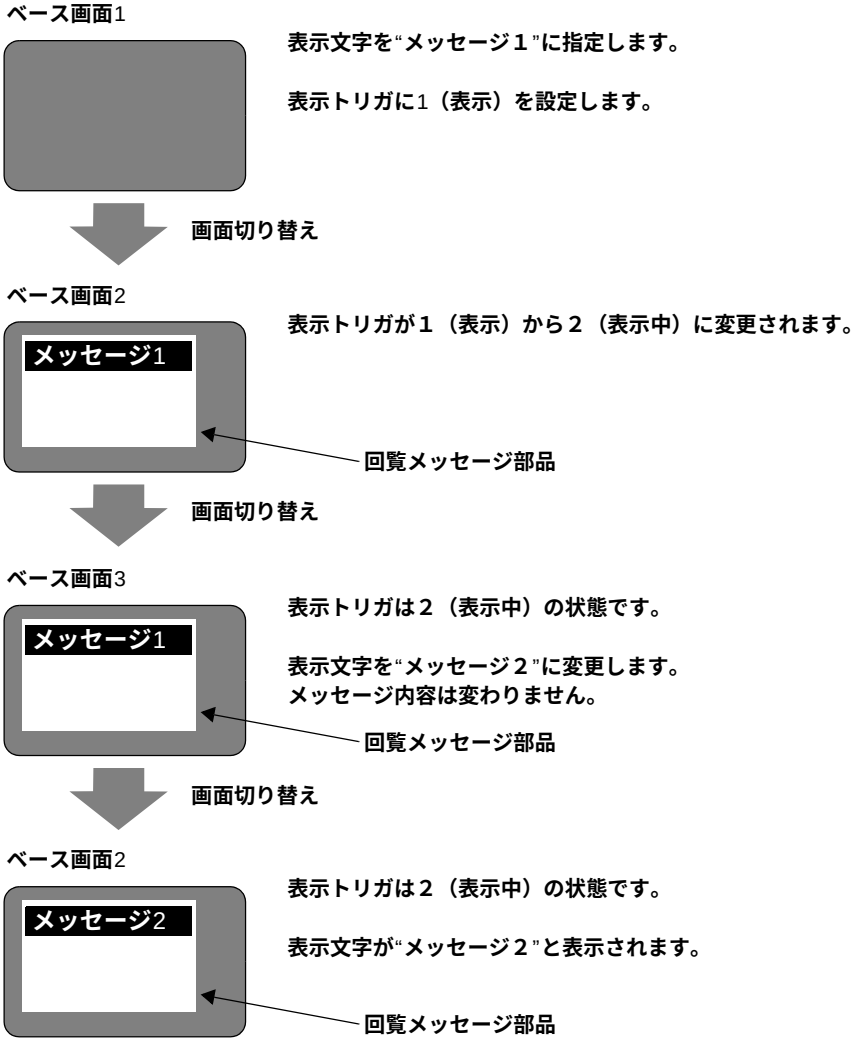
状態	表示/消去ビット：ビット0	表示状態ビット：ビット4
消去	OFF	OFF
	OFF	ON
表示	ON	OFF
表示中	ON	ON

各状態の動作は次のようになります。

- 消去
  OFF (消去状態) になるとメッセージが消去され、表示状態ビットが OFF に更新されます。
- 表示
  「言語 (指定アドレス +4)」以降のアドレス値に応じて、メッセージが表示されます。
  表示完了ビットが ON に更新されます。
- 表示中
  メッセージの表示が完了した状態です。メッセージを更新するには次のいずれかの方法で行ってください。
  - [表示](表示状態ビットを OFF) にする
  - [消去] 後、再度 [表示] にする

- 画面切替での表示
  画面切替先に設定されているの回覧メッセージ部品の指定アドレスが、[表示] および [表示中] 状態の場合、画面切替後にメッセージ表示範囲に文字を表示します。

  例) 画面に設定したすべての回覧メッセージ部品が同じ指定アドレスを指定した場合



◆**指定アドレス** +1**：ウィンドウ番号**

◆**指定アドレス** +2**：ウィンドウ表示位置の X 座標**

◆**指定アドレス** +3**：ウィンドウ表示位置の Y 座標**

回覧メッセージ部品としては、使用しない予約アドレスになります。
[グローバルウィンドウ動作] の設定で [間接] を選択したときに指定する内部アドレスと回覧メッセージ部品の指定アドレスが同じ場合、ウィンドウ画面の表示に使用されるアドレスになります。

MEMO ☞「5.17.6 [**システム設定ウィンドウ**] **の設定ガイド ◆ 動作設定**」（5-149 **ページ**）

◆**指定アドレス** +4**：言語**

表示させる文字の言語を設定します。

言語	言語コード
ヨーロッパ	0x0000
韓国	0x0001
台湾	0x0002
中国	0x0003
日本	0x0004
キリル文字 (ストロークフォントのみ)	0x0005
タイ語 (ストロークフォントのみ)	0x0006

- 言語コード以外がセットされた場合は、メッセージが表示されません。

◆**指定アドレス** +5**：フォント**

表示メッセージの文字フォントを設定します。

フォント	値
標準フォント	0
ストロークフォント	1

- フォント値以外がセットされた場合は、標準フォント (キリル文字・タイ語はストロークフォント) として表示されます。

◆指定アドレス +6：文字サイズ

表示メッセージの文字サイズを設定します。
文字サイズの値は、次のとおりです。

文字サイズ	値
8x16	0x0810
8x32	0x0820
8x64	0x0840
16x16	0x1010
16x32	0x1020
16x64	0x1040
32x16	0x2010
32x32	0x2020
32x64	0x2040

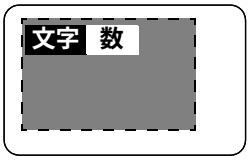
- ストロークフォントフォントは、縦サイズのみで判断されます。
- 対応文字サイズ値以外の値がセットされた場合、フォント読み出し失敗のエラーメッセージが表示されます。

◆指定アドレス +7：文字数

「文字色 (指定アドレス +8)」、「文字背景色 (指定アドレス +9)」、「ブリンク (指定アドレス +10)」の設定を反映する文字の数を設定します。タイ語、キリル文字など 2 文字分のコードで 1 文字の表示になる重ね文字は、2 バイトを 1 文字として算出してください。

- 「文字数 (指定アドレス +7)」、「文字色 (指定アドレス +8)」、「文字背景色 (指定アドレス +9)」、「ブリンク (指定アドレス +10)」で 1 つの設定になります。あわせて設定してください。
- 「文字数 (指定アドレス +7)」と文字の数が異なる場合は、設定した文字と異なる文字が表示されるなど、正しく表示されません。
- 文字数の合計が 160 文字を超える場合は、160 文字までが表示対象になります。

例) ベース画面に次のメッセージを表示する場合



...	文字サイズ	文字数	文字色	文字背景色	ブリンク	文字	文字	文字数	文字色	文字背景色	ブリンク	文字	全体終端
設定値		2				文	字	1				数	0

2文字　1文字

◆指定アドレス +8：文字色

◆指定アドレス +9：文字背景色

文字の表示色を設定します。
文字ごとに文字色を変更することができます。

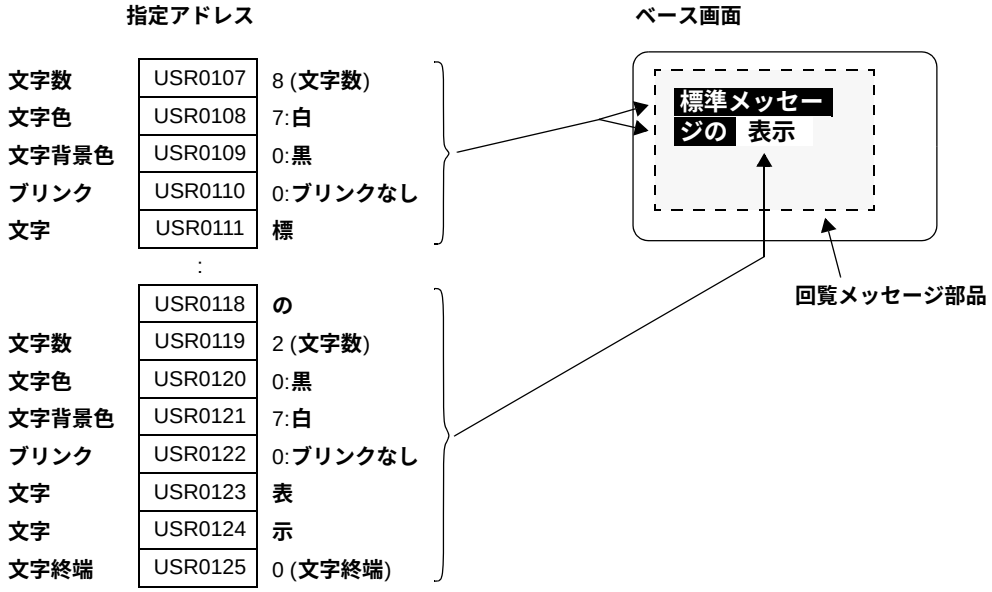
- 「文字数 (指定アドレス +7)」、「文字色 (指定アドレス +8)」、「文字背景色 (指定アドレス +9)」、「ブリンク (指定アドレス +10)」で 1 つの設定になります。あわせて設定してください。
- 変更したい文字の先頭に設定してください。
- 設定値以外の値がセットされた場合、下位の 11 ビットを使用して表示されます。

次の 64 色に対応します。

番号	RGB	番号	RGB	番号	RGB	番号	RGB
0	(0.0.0)	1	(0.0.255)	2	(0.255.0)	3	(0.255.255)
4	(255.0.0)	5	(255.0.255)	6	(255.255.0)	7	(255.255.255)
8	(0.0.64)	9	(0.0.160)	10	(0.64.0)	11	(0.64.64)
12	(0.64.160)	13	(0.64.255)	14	(0.160.0)	15	(0.160.64)
16	(0.160.160)	17	(0.160.255)	18	(0.255.64)	19	(0.255.160)
20	(64.0.0)	21	(64.0.64)	22	(64.0.160)	23	(64.0.255)
24	(64.64.0)	25	(64.64.64)	26	(64.64.160)	27	(64.64.255)
28	(64.160.0)	29	(64.160.64)	30	(64.160.160)	31	(64.160.255)
32	(64.255.0)	33	(64.255.64)	34	(64.255.160)	35	(64.255.255)
36	(160.0.0)	37	(160.0.64)	38	(160.0.160)	39	(160.0.255)
40	(160.64.0)	41	(160.64.64)	42	(160.64.160)	43	(160.64.255)
44	(160.160.0)	45	(160.160.64)	46	(160.160.160)	47	(160.160.255)
48	(160.255.0)	49	(160.255.64)	50	(160.255.160)	51	(160.255.255)
52	(255.0.64)	53	(255.0.160)	54	(255.64.0)	55	(255.64.64)
56	(255.64.160)	57	(255.64.255)	58	(255.160.0)	59	(255.160.64)
60	(255.160.160)	61	(255.160.255)	62	(255.255.64)	63	(255.255.160)

MEMO
- カラーコードは GP-Pro EX での設定と同じです。

例)ベース画面に回覧メッセージ部品を設定し、指定アドレスを USR0100 とした場合
表示内容を " 標準メッセージの表示 " とします。
" 標準メッセージの " を文字色白・背景色黒とします。
" 表示 " を文字色白・背景色黒とします。



◆指定アドレス +10：ブリンク

文字のブリンクの有無を設定します。

ブリンク	値
ブリンク無し	0
中速ブリンク	1
低速ブリンク	2
高速ブリンク	3

- 「文字数 (指定アドレス +7)」、「文字色 (指定アドレス +8)」、「文字背景色 (指定アドレス +9)」、「ブリンク (指定アドレス +10)」で 1 つの設定になります。あわせて設定してください。
- ブリンク値以外がセットされた場合、ブリンク無しになります。

◆指定アドレス +11：文字

表示範囲に表示する文字を設定します。
アドレスに格納される文字は、UNICODE です。
表示文字に改行が格納されている場合は、改行されます。
表示可能な文字数は (改行も含めて)、160 文字までです。

MEMO
- 内部アドレスにデータを設定する場合、文字列データモードを考慮する必要があります。詳細は、以下を参照してください。

☞「■ 文字列データモードに応じたデータの格納」（17-83 ページ）

◆指定アドレス + n + x +1：文字終端（文字数）

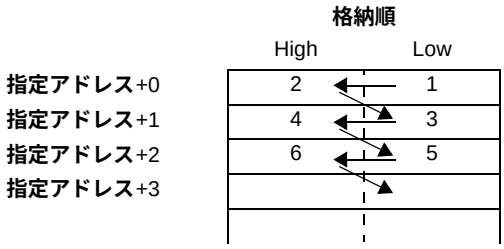
回覧メッセージで表示される文字の終端を設定します。
「0 (0x00) 固定」になります。

■ 文字列データモードに応じたデータの格納

内部アドレスにデータを設定する場合、文字列データモードを考慮する必要があります。
内部アドレスは、使用するデバイスおよび文字列データモードにより、回覧メッセージで表示するための設定項目への格納方法が異なります。

◆USER エリア

文字列データモードの格納順序設定には依存せず、L/H 固定 (リトルエンディアン) になります。



※ 指定アドレスの加算はワード単位です。

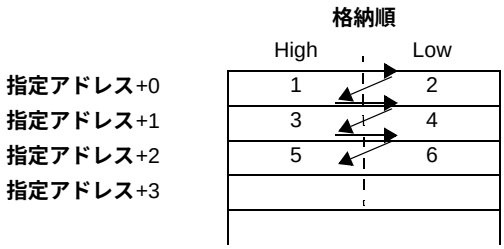
例) 内部アドレスに USR0100 を指定し、文字データ 0x1234・0xABCD・0x5678 の 3 文字を格納する場合 (表示トリガ：0、文字色：7、文字背景色：0、ブリンク：1)

	High	Low	設定項目名
USR0100	0x00	0x00	表示トリガ
	:		
USR0107	0x00	0x03	文字数
USR0108	0x00	0x07	文字色
USR0109	0x00	0x00	文字背景色
USR0110	0x00	0x01	ブリンク
USR0111	0x34	0x12	文字
USR0112	0xCD	0xAB	文字
USR0113	0x78	0x56	文字
USR0114	0x00	0x00	文字終端
USR0115			

◆16 ビットの LS エリアおよびメモリリンク専用システムエリア

文字列データモードの設定設定値に依存します。

- HL 順 (文字列データモード：「1」「3」「5」「8」) の場合



※ 指定アドレスの加算はワード単位です。

例）内部アドレスに LS0100 を指定し、文字データ 0x1234・0xABCD・0x5678 の 3 文字を格納する場合 (表示トリガ：0、文字色：7、文字背景色：0、ブリンク：1)

	High	Low	設定項目名
LS0100	0x00	0x00	表示トリガ
	:		
LS0107	0x00	0x03	文字数
LS0108	0x00	0x07	文字色
LS0109	0x00	0x00	文字背景色
LS0110	0x00	0x01	ブリンク
LS0111	0x34	0x12	文字
LS0112	0xCD	0xAB	文字
LS0113	0x78	0x56	文字
LS0114	0x00	0x00	文字終端
LS0115			

- LH 順 (文字列データモード：「2」「4」「6」「7」) の場合

格納順

	High	Low
指定アドレス+0	2	1
指定アドレス+1	4	3
指定アドレス+2	6	5
指定アドレス+3		

※ 指定アドレスの加算はワード単位です。

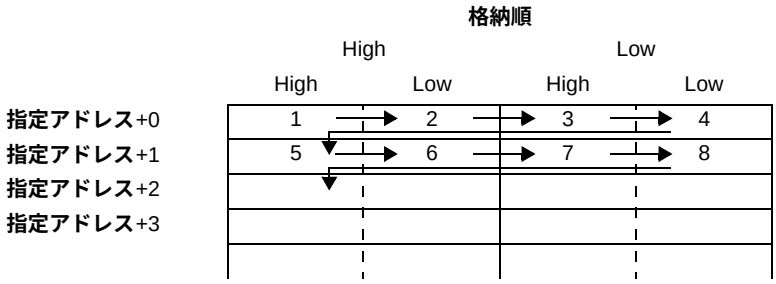
例) 内部アドレスに LS0100 を指定し、文字データ 0x1234・0xABCD・0x5678 の 3 文字を格納する場合 (表示トリガ：0、文字色：7、文字背景色：0、ブリンク：1)

	High	Low	設定項目名
LS0100	0x00	0x00	表示トリガ
	:		
LS0107	0x03	0x00	文字数
LS0108	0x07	0x00	文字色
LS0109	0x00	0x00	文字背景色
LS0110	0x01	0x00	ブリンク
LS0111	0x12	0x34	文字
LS0112	0xAB	0xCD	文字
LS0113	0x56	0x78	文字
LS0114	0x00	0x00	文字終端
LS0115			

◆32 ビットの LS エリアおよびメモリリンク専用システムエリア

文字列データモードの設定設定値に依存します。

- HL 順 (文字列データモード：「1」「2」「3」「7」) の場合

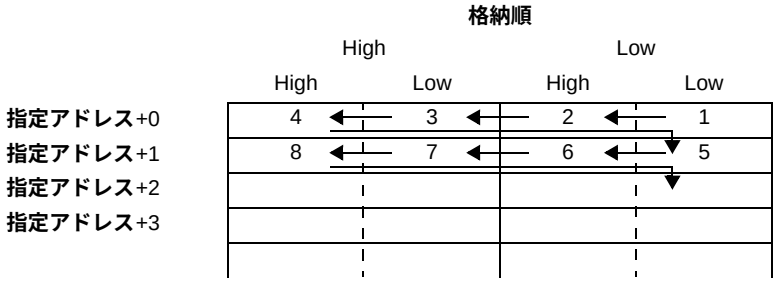


※ 指定アドレスの加算はダブルワード単位です。

例) 内部アドレスに LS0100 を指定し、文字データ 0x1234・0x5678・0x9ABC の 3 を格納する場合
(表示トリガ：0、文字色：7、文字背景色：0、ブリンク：1)

	High		Low		設定項目名
	High	Low	High	Low	
LS0100	0x00	0x00	0x00	0x00	**表示トリガ**
			:		
LS0107	0x03	0x00	0x00	0x00	**文字数**
LS0108	0x07	0x00	0x00	0x00	**文字色**
LS0109	0x00	0x00	0x00	0x00	**文字背景色**
LS0110	0x01	0x00	0x00	0x00	**ブリンク**
LS0111	0x12	0x34	0x56	0x78	**文字**
LS0112	0x9A	0xBC	**未使用**	**未使用**	**文字**
LS0113	0x00	0x00	0x00	0x00	**文字終端**
LS0114					
LS0115					

- LH 順 (文字列データモード：「4」「5」「6」「8」) の場合



※ 指定アドレスの加算はダブルワード単位です。

例) 内部アドレスに LS0100 を指定し、文字データ 0x1234・0x5678・0x9ABC の 3 を格納する場合
(表示トリガ：0、文字色：7、文字背景色：0、ブリンク：1)

	High		Low		設定項目名
	High	Low	High	Low	
LS0100	0x00	0x00	0x00	0x00	**表示トリガ**
			: :		
LS0107	0x00	0x00	0x00	0x03	**文字数**
LS0108	0x00	0x00	0x00	0x07	**文字色**
LS0109	0x00	0x00	0x00	0x00	**文字背景色**
LS0110	0x00	0x00	0x00	0x01	**ブリンク**
LS0111	0x78	0x56	0x34	0x12	**文字**
LS0112	**未使用**	**未使用**	0xBC	0x9A	**文字**
LS0113	0x00	0x00	0x00	0x00	**文字終端**
LS0114					
LS0115					

■ 内部アドレスの使用範囲

- 1 文字を 2 バイトとし、最大 160 文字 (320 バイト) までを有効とします。
- タイ語、キリル文字など 2 文字分のコードで 1 文字の表示になる重ね文字は、2 バイトで 1 文字となります。
- 1 ワードを 2 バイトとします。
- 16 ビットデバイスで指定できる最小のワード数は、12 ワードとなります。
  (文字数 [指定アドレス +7] を 0 とした表示文字がない場合)

表示制御の情報および固定の表示情報	＋	属性変更ごとに付加する情報	＋	全体終端
7ワード		4ワード		1ワード

- 32 ビットデバイスで指定できる最小のワード数は、24 ワードとなります。
  (文字数 [指定アドレス +7] を 0 とした表示文字がない場合)

表示制御の情報および固定の表示情報	＋	属性変更ごとに付加する情報	＋	全体終端
14ワード		8ワード		2ワード

- 16 ビットデバイスで指定できる最大のワード数は、表示最大数の 160 文字を 1 文字ごとに文字色変更など属性を変えた場合、808 ワードとなります。

表示制御および固定の表示情報	＋	(属性変更ごとに付加する情報	＋	最大文字数 160文字)
7ワード		4ワード		

＋ (文字	×	最大文字数 160文字)	＋	全体終端
1ワード				1ワード

- 32 ビットデバイスで指定できる最大のワード数は、表示最大数の 160 文字を 1 文字ごとに文字色変更など属性を変えた場合、1456 ワードとなります。

表示制御および固定の表示情報	＋	(属性変更ごとに付加する情報	×	最大文字数 160文字)
14ワード		8ワード		

＋ (文字	×	最大文字数 160文字)	＋	全体終端
1ワード				2ワード

17.10 制限事項

17.10.1 メッセージ表示器の制限事項

■ 直接入力

- メッセージを登録していない状態を指定した場合、メッセージ表示器内には何も表示されません。例えば、メッセージ数が「16」で、実際にメッセージを登録しているのが状態 0 ～ 3 までの場合、状態 4 ～ 15 を指定すると、メッセージ表示器の枠しか表示されません。

■ テキスト表示

- [表示開始行] として設定されたデータに該当する行がない場合は、何も動作を行いません。すでに表示されている行はそのままです。
- [表示文字数] を超えたメッセージを入力した場合、あふれた部分は表示されません。
  [表示文字数] の範囲内に収めてください。

■ 回覧メッセージ

- 内部アドレスは、LS エリア、USER エリア、メモリリンク専用システムエリアが指定可能なアドレスを指定できます。
- グローバルウィンドウ動作のウィンドウ画面を使用した回覧メッセージの表示は、ウィンドウ画面の表示優先順位に準じて表示されます。
  このためセキュリティパスワード入力画面など優先順位が高い特殊ウィンドウが表示されている間、ユーザーウィンドウであるグローバルウィンドウ動作のウィンドウ画面が表示できないため、回覧メッセージを表示することができません。
  ただし、グローバルウィンドウ動作のウィンドウ画面を使用した回覧メッセージの表示は、ほかのユーザーウィンドウの表示より優先が高くなります。

MEMO

- ユーザーウィンドウ・特殊ウィンドウなどのウィンドウ種別および優先順位の詳細は、以下を参照してください。

☞「12.8 **ウィンドウの制限事項**」（12-28 **ページ**）

- デバイスモニタ表示とグローバルウィンドウ画面表示を同時に表示することはできません。
  すべての画面での回覧メッセージ表示を行う場合、デバイスモニタの表示動作は次のようになります。
  1. デバイスモニタ表示中にグローバルウィンドウ画面の表示を実行した場合、デバイスモニタ表示が終了し、グローバルウィンドウ画面が表示されます。
  2. グローバルウィンドウ表示中にデバイスモニタ画面の表示を実行した場合、グローバルウィンドウ表示が終了し、デバイスモニタが表示されます。
  3. 「2.」の状態よりデバイスモニタを終了するとグローバルウィンドウ画面が再表示されます。
  4. 「2.」の状態よりグローバルウィンドウ画面を終了するとグローバルウィンドウ画面およびデバイスモニタ表示が消去されます。

  ☞「5.17.6 [**システム設定ウィンドウ**] **の設定ガイド ◆ 動作設定**」（5-149 **ページ**）
- 回覧メッセージの表示範囲を超える文字は表示できません。
- 回覧メッセージの表示範囲に関係なく、160 文字を超える文字は表示されません。

- 指定した文字数が内部アドレスのアドレス範囲を超える場合、メッセージが正しく表示されません。
  表示文字が 160 文字以内であっても、内部アドレスの範囲を超える文字数が指定されている場合、読み出しエラーが発生し、指定された文字数の表示を行うことができません。
- 文字の下部が表示範囲を超える場合、表示範囲外の部分は表示されません。
- 回覧メッセージ部品のアドレスで指定される「文字数 (指定アドレス +7)」が不正な値の場合、メッセージが正しく表示されません。
- 指定アドレスへ格納する場合、文字列データモード (High/Low) の設定を確認してください。
  文字列データモードと異なる設定を行った場合、メッセージが正しく表示されません。
  「■ 文字列データモードに応じたデータの格納」（17-83 ページ）
- 言語、フォント、文字サイズは、文字ごとに変更することはできません。
- 文字色、文字背景色、ブリンクを文字ごとに設定する場合、設定ごとに対象の文字の属性を格納領域が必要となります。
- 回覧メッセージ部品では、次の機能は対応されません。
  1. 縦型機種の表示角度対応 (角度 :0 ° 固定)
  2. 行間隔設定の機能
  3. 表示文字左右詰めおよび中央寄せ設定の機能
  4. 縦書き表示の機能 (方向 : 横書き固定)

17.10.2 言語切り替え（マルチランゲージ）の制限事項

- 言語切り替えを行うと、文字列テーブルを使用しているすべての文字列が切り替わります。
  文字列テーブルに登録した文字列を使用できるのは以下の機能です。
  - 描画の文字列
  - スイッチランプ部品の銘板
  - アラーム部品の項目名
  - メッセージ表示器 [直接入力] に登録するメッセージ
  - 共通設定 [アラーム設定] で登録するアラームメッセージ
- テキストで複数言語を使用する設定を行っている場合、言語切り替えを行うとメッセージ表示器 [テキスト表示] やテキストアラーム部品に表示しているテキストも変更されます。
- データ表示器 [文字列表示] に表示する文字列は変更できません。またサンプリングデータ表示器や特殊データ表示器に表示される項目名や文字列も、言語切り替えによる変更はできません。
- 複数の文字列テーブルを同時に表示することはできません。
- 言語切り替えを行うと、画面切り替えを行った場合と同様の動作になります。言語切り替え前に表示されていた画面が再現されない場合があります。

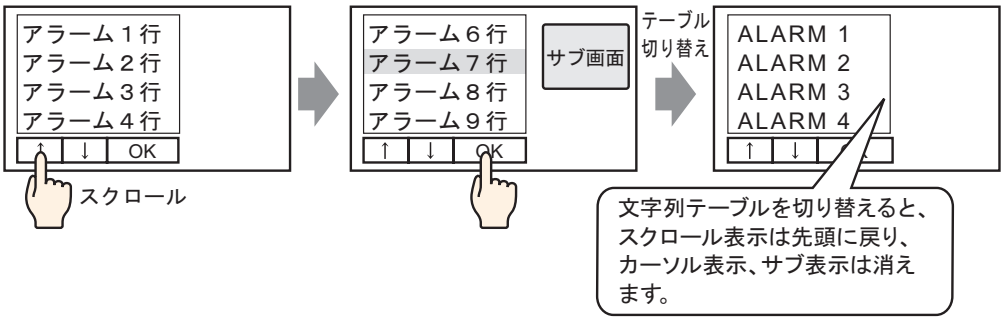
■ アラームの言語切り替え

- [アラーム設定] で [文字列テーブルを使用する] を設定すると、それまで直接入力で設定されていたメッセージはすべて削除されます。
- アラームメッセージを登録する際、文字列を直接入力するか文字列テーブルを参照するかは、すべてのアラーム（流れ表示、アラーム履歴、サマリ表示）に共通の設定です。直接入力した文字列とテーブルから参照した文字列を同時に表示させることはできません。
- 文字列テーブルで登録されている文字列の中に複数行のものがある場合は、最初の 1 行のみ表示／印字されます。

◆ アラーム履歴およびサマリ表示

- アラーム履歴用スイッチをアラーム部品の [スイッチ設定] タブで設定する場合、銘板には文字列テーブルを使用できません。アラーム履歴用スイッチの言語を切り替えたい場合は、スイッチランプ部品の特殊スイッチを使用してください。
  ☞「10.15.4 **特殊スイッチ**」（10-66 **ページ**）
- 文字列テーブルを切り替えると、画面は初期状態（画面切り替え直後の表示状態）で表示されます。従って、文字列テーブルを切り替える前にアラームの表示がスクロールされていたり、サブ画面が表示されていた場合はいったん元に戻ります。

（例）



- アラーム履歴を CF カードや USB ストレージに保存（CSV ファイル出力）している途中に文字列テーブル（言語）を切り替えないでください。途中で切り替わってしまうと、CSV ファイルの中に異なる言語の文字列が出力されてしまい、表計算ソフト等で正しく表示できない場合があります。
- アラーム履歴の印字中に文字列テーブル（言語）を切り替えないでください。一括印字している途中で文字列テーブル（言語）が切り替わると、途中の行から異なる言語の文字が出力されてしまい、印字イメージから多少ずれてしまう場合があります。
- アラーム履歴の CSV 保存や印字の際、「日付」、「発報」などの項目名は、アラームメッセージ（文字列テーブル）の言語が日本語の場合は日本語、日本語以外（欧米、韓国語、中国語 (繁体字)、中国語 (簡体字)、キリル文字、タイ語）の場合は英語となります。

◆流れ表示

- 流れアラームメッセージが表示されている途中で文字列テーブル（言語）が切り替わった場合は次に出てくるメッセージから言語が切り替わります。

17.10.3 本体ファイル作成の制限事項

- 本機能を使用する場合は、[システム設定ウィンドウ] の [本体設定] から [拡張機能設定] － [文字列テーブル読み込み設定] で [文字列テーブル読み込みを使用する] にチェックを入れてください。
- 起動時に外部ファイルの読み込みを行う設定にしていると、表示器の起動に時間がかかる場合があります。
- 表示器に転送されているプロジェクトファイルに設定されていないテーブル番号のファイルは読み込みません。
  設定されていないインデックス番号も読み込みません。
- 文字列テーブルの文字数は、表示器に転送されているプロジェクトファイルの設定が引き継がれます。外部ファイルの文字数の方が多い場合、超過した文字は読み込まれません。
- CSV ファイル以外のファイルは読み込みを行いません。
- 外部ファイルのデータ形式と表示器に転送されている文字列テーブルの言語設定が異なっていた場合、文字列テーブルの書き換えは行われますが正しく表示されない場合があります。

17.10.4 文字列テーブルコンバータの制限事項

- 文字列テーブルのコンバート中に、検索した文字列と同一の文字列がすでに登録されている場合は、先に登録されている文字列のインデックス番号のみ有効となります。
- 文字列テーブルのインデックス番号は 10000 まで登録できます。文字列テーブルのコンバート中に 10000 インデックスに達した場合は、エラーメッセージが表示され、その時点までの文字列テーブルが保存されます。